

会行事真乘院 大僧都 玄 昭

十月十五日 山形教区吉祥院住職佐竹義亮は四十年間地方自治に尽した功績により藍綬褒章を受賞した。

十一月九日 天台座主大僧正中山玄秀猯下は午前一時三十五分遷化された。

探題大僧正 即真周湛 在山十一年

岐阜県大垣市東長一〇三九 沢 汀舟 四男

師主 延暦寺一山理性院 即真得湛

昭和三十四年十一月九日 任天台座主

十一月九日 本日直ちに探題大僧正即真周湛猯下が天台座主に就職され、同日延暦寺住職に就かれた。

十一月十日 金剛慈心院天台座主探題大僧正大々先達玄秀総一和尚の密葬儀が、滋賀院門跡に於いて、天台座主大僧正即真座主猯下御導師

の下一山住職出仕して執行された。

十一月自廿六日至廿八日

第十二回定期宗議会に於いて、天台宗史編纂の事が決められ、五十余万円の予算があてられた。その後編纂主任に勝野隆信東大助教授が任命された。

十一月廿九日 金剛慈心院天台座主探題大僧正玄秀大和尚の御本葬の儀は、この日比叡山麓讚仏堂に於いて午前十一時から、新座主大僧正即真周湛猊下の御導師の下一山住職総出仕してしめやかに執行された。会葬者は、仏光寺、興正寺、鞍馬寺、四天王寺、大聖寺、聖観音宗、三井寺、石山寺、孝道教団等各本山代表を始め、宗内各門跡、教区長、宗会議員等宗内公職員、仏聯代表、谷口滋賀県知事、上原大津市長、学校関係代表、学界代表他各種団体代表及び一般参列者等で、凡そ千数百名に上った。

十二月十九日 延暦寺一山叡南覚誠は滋賀院門跡に任命された。

十二月廿四日 大僧正叡南覚誠は延暦寺執行に任命された。

昭和三十五年<sup>子庚</sup>一月十二日 故中山座主猯下の五七日の法要は、比叡山麓滋賀院で午後四時から、即真座主猯下御導師の下一山を始め、宗務当局、近隣大寺住職等出仕して厳かに営まれた。

一月十三日 故中山座主猯下の納骨の儀が、比叡山麓慈眼堂の歴代座主墓地で執行された。

一月十六日 即真座主猯下の御拝堂式が行われた。この日猯下は、中山延暦寺副執行、福田幹事、北角財務部長を随えて、根本中堂、祖廟を始め三塔諸大堂の御拝堂を古式に則って行い、御上任の御報告を無事終了された。

一月十七日 延暦寺一山禅定院住職藤支哲道は叡山学院々長に任命された。

自二月廿三日  
至三月十三日 藤原三代の平泉文化をしのぶ中尊寺秘宝展が、大阪心斎橋大丸に於いて、中尊寺、朝日新聞社の共催、文化財保護委員会、奈良国立博物館、岩手県、延暦寺後援で開かれた。

三月一日 比叡山の大講堂再建の実現を目指して発足した延暦寺叡南内局は、その第一歩として、延暦寺一山自身の強化団結に踏み出し、先ず行政組織の根本的改革と、教学、財政の強化を断行する事を決定し、山上中心主義に転換する事に成り事務所を山上にあげた。

三月九日 近江八景「比良の暮雪」で有名な比良山を舞台にした比良修験道は、久しく絶えていたが、この程箱崎文応大行滿によって復活される事になり、その復活結成報告祈願祭が、比叡山麓日吉大社に於いて、行者等多数集まり盛大に行われた。

三月十五日 ドライブ・ウェイの開通等もあって、比叡山を訪れる人数が最近急増したので、延暦寺一山協議会に於いて、諸堂塔の整備と山の尊嚴の護持運営の建前から、延暦寺国宝諸堂巡拝冥加料収納規定が定められ、この日から実施される事に成った。

三月廿七日 岡山教区本山寺（住職清田寂雲）で、本尊開帳大法要が、即真天台座主猊下の御親修の下、嚴肅盛大に執行され、座主猊下のお授戒を受けた人も約百人を数えた。

四月三日 天台真盛宗本山西教寺では、かねて建築中であつた大本坊がこの程完工したので、その落成慶讃法要が桜花らんまんの此の日行われ、座主猊下は叡南副執行等随員と共に参列、その他各宗管長、谷口滋賀県知事、上原大津市長等も参列した。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は延暦寺根本中堂に於いて、天台座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して普賢延命法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿六日 真盛宗総本山山西教寺から、宗祖慈摂大師真盛上人の御木像が延暦寺へ奉献される事になり、御尊像奉安法要が行われた。この日午前十一時正装した木村管長をはじめ真盛宗寺院僧侶が隊列を整えて御尊像を奉持して、数百人の結衆の念仏奉唱の中、根本中堂に到り、中堂正面に安置し、木村管長導師によって常行三昧念仏回向法要が厳かに執行され、木村管長から御尊像奉納目録が天台座主に手渡された。

同日 比叡山浄土院侍真を二期(二十四年)勤めた延暦寺本行院住職権大

僧正太野垣善淨は、七十三才をもって遷化した。

四月廿七日 天台座主伝灯相承式が執行された。この日宿院玄関より

先私—会行事—伶人—式衆—布衣—護持僧—御相承譜(執行)—弟子—座主猥下

—弟子—布衣—朱傘—宗務総長—役員(二宗並延暦寺)—内司—法類近親者等

の行列を整えて根本中堂に到着、座主猥下は御宝前に進み登壇後、唄  
匿、散華の間に、「八舌の鍵」「一字金輪塔相承譜」「舍利塔」を相伝し各  
相承譜に署名して相承の儀式を終り、法楽御降壇の後参列者並びに宗  
徒に対して御挨拶があり、宗会議長、延暦寺檀信徒代表、西教寺管長、  
滋賀県知事、大津市長等の賀辞奉呈があつて相承の典儀が終了した。

第二百五十一世天台座主伝灯相承式次第

一番鐘 午前九時式衆集会所参集

二番鐘 同九時半式衆装束 此間参列者入場

三番鐘 同十時天台座主猥下並式衆入堂

先 式 衆 入 堂 (越天楽)

次 座主猥下御入堂登壇 (嘉祥楽)

次 唄 (長寿唄) (賀 殿)

此間御宝前にて相承の御儀式

次 散 華 (迦陵頻)

次 表 白

次 諷 誦 文

次 発 願

次 四 弘

次 開 經 偈

次 法 樂 (心 經)

次 後 唄

次 座 主 猊 下 降 壇 (胡 飲 酒)

次 座 主 猊 下 御 挨拶

次 賀 辞

次 宗 務 総 長 挨拶

次 座 主 猊 下 並びに式衆退場 (蘭 陵 王)

次 一 同 退 場

即真座主猊下は左記の通り就任の御挨拶をされた。

お言葉

宗祖大師一乗の妙法を叡岳に弘め給うや親しく円宗弘教の聖勅を蒙り万里の波濤を凌いで大法を異朝に求め顕密の奥旨を伝えて濟世利民の主旨を定め給い以って化道を本邦に布き給えり、爾來隆替無きに非ずと雖列祖克く宗祖立教の本旨を繼承し宗基を恢弘し給いて今日に至る。

宗徒各員深くここに鑑み宗祖の遺訓に遵い列祖の軌範に則り各自戒行精進よく勸励して群迷を極い令法久住の法鼓を鳴さんことをこれ深く望む処なり、一乗沙門周湛茲に宗規に則り天台座主の職位に就き伝灯を相承し奉る。

惟うに老衲夙に宗祖瀉瓶の法水を汲み解行に専念すと雖尚未だ欠くる所多し唯々仏天の冥鑑と宗祖の照覽を仰ぎ且つは同法諸師の協力を得て以って此の大任を全うせんことを期す。

願くは我同法深く世情を達観し住持仏法利益国家接引群生の実をあげ奉ると共に、又己が本分を尽さむことを。

昭和三十五年四月廿七日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

四月廿八日 横浜の孝道教団では、先頃から建築中であつた仏舍利殿がこの程完成し、先に延暦寺から譲渡された仏舍利が奉安されたが此の度この舍利殿に根本中堂の不滅の法灯がともされる事になり、その分灯式が比叡山上根本中堂に於いて嚴肅裡に行われ、白木の宝塔にうつされた法灯が即真座主猊下から岡野孝道教団統理の手に渡された。

五月三日 山陰教区安来市の古刹清水寺（在職中安実円）では、諸堂宇が損壞していたため安来市清水寺文化財保存会が修理を計画、先ず第一期工事として根本堂、仁王門、大門、毘沙門堂、本堂等の修繕工事を昭和三十一年から四年継続事業で行つて来たが、この程ようやく完成したので、その落慶法要が天台座主猊下御親修の下、山陰教区各寺院住職二十数人が出仕して行われ、稚児八十人、大井安来市長の他来賓

信徒数百人が参列随喜した。

五月十四日 延暦寺法灯護持会の発会式が書院で行われた。

五月十五日 この日読売テレビで、午前七時二十分から、即真天台座主猊下の法話、比叡山のお話が放送された。

五月十九日 天台寺門宗管長に当選した三井豊興大僧正の晋山式が三井寺山内勸学院で午前十一時から宗内外の名士百余人参列の下で行われた。

五月廿一日 京都山科の毘沙門堂門跡に於いて、現天台宗宗務総長山中忍海門主の晋山式が、午前十一時から行われ、天台座主始め宗内の各役員等百数十人が参列した。

五月廿二日 横浜の孝道教団で、仏舎利殿の竣工落慶大法要と、仏舎利殿入仏供養並びに「不滅の法灯」遷灯式が、各宗管長等の来賓及び全信徒の参列の中に厳修された。

この日午前九時半、岡野正道統理が、昭和二十七年八月に延暦寺から分譲された三国伝来の仏舎利を捧げて入堂し、後に続く玄尚若統理又、

去る四月廿八日根本中堂で承けた不滅の法灯を奉持して蓮華座塔の兩側の灯籠に遷した。この後十時半から、即真天台座主猥下の大導師の下叡山式衆出仕して、平安朝の古式豊かな舍利讚嘆供養によって慶讚法要が執行された。

五月廿七日 天台座主猥下は、午前十一時半叡南副執行等を随えて、大阪府南河内郡太子町磯長にある叡福寺聖徳太子廟に参拝され、二百五十世天台座主上任の御報告を済まされた。この後猥下は随行と共に四天王寺にも参拝された。

六月一日 東叡山一山浦井亮玄は上野輪王寺門跡に任命された。

六月二日 京都市右京区山ノ内町内の、宗祖大師の御生母妙徳夫人の御出生の地と伝えられる場所は、現在も伝教大師史跡保存会の有志の手により守られ、嘗ては毎年八月十八日に叡山から参拝していたが、昨今途絶えたので。最近になって同町有志から往年の行事を復活させたい旨の申入れがあり、延暦寺では、伝教大師御入滅の日を迎えたこの日、福田法務部長等が同地へ出向き、保存会の人達と俱に懇な回向

を行なった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猊下御証義の下巖肅裡に執行された。

七月三日 東京都上野の輪王寺門跡に就任した浦井亮玄門主の晋山式は、この日本堂で宗内外関係者約二百人が参列して盛大に行われ、延暦寺からも叡南副執行、武庶務部長が参列祝意を表した。

七月八日 この程完成した比叡山西塔方面の全長一、六〇〇米にわたる防災消火施設の竣工式が、午前十一時から釈迦堂に於いて、即真天台座主猊下御導師の下一山僧出仕して執行された。引続き一山僧侶や来賓の見守る中、延暦寺自警団員による放水式が行われた。

七月廿四日 午後零時二十五分、比叡山ドライブ・ウェイ延暦寺駐車場東方五百米の三差路付近で、神戸市葺合区遺族会四十余人を乗せた全但バスが百五十米下の約七十度の傾斜をもつ西ノ谷に転落、二十九人が死亡、十七人が重傷を負うと云う、大惨事が起ったが、当時現場近くに居合せた延暦寺一山の関係者約五十人はいち早く救援の手をさ

しのべる等適切な処置をとり、犠牲者の冥福を祈った。

七月廿七日 比叡山自動車道株式会社では、ドライブ・ウェーを利用する自動車の交通安全と厄難消除を祈るため、昨年から各旅客自動車、バス会社にかけて根本中堂で祈願法要を行っていたが、今年も午前十一時から、天台座主猊下御親修の下一山僧出仕して、京阪神地区二十四社から各代表が参列して、交通安全祈願法要を執行した。

八月十六日 去る七月廿四日比叡山ドライブウェーで起ったバス転落事故の遭難者二十九人の霊をとむらう慰霊法要は、盂蘭盆のこの日比叡山阿弥陀堂に於いて、天台座主猊下の御導師で一山僧侶三十人が出仕して、遺族等参拝者の列席の中で執り行われた。この後一行は、ドライブウェー転落現場に赴き、遭難者の冥福を祈った。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山総持坊住職権大僧正中山玄雄は戸津説法を勤仕した。

八月廿四日 日本仏教に於ける教学の根本道場とも云うべき比叡山延暦寺の使命に鑑み、この聖域を護持し乍ら今後の運営の根本方策を確

立し、国家有用の人材を育成すると共に、不滅の法灯を顕揚するため真俗一体の「延暦寺奉讃会」が結成される事になり、この日山上書院で即真座主猊下御臨席の下に、特別法縁者懇談会が開かれ、各有力方面の協賛を仰ぐことになった。

#### 奉讃会結成発願

平安朝の昔伝教大師が、後の仏の御代迄も光り伝えよと点ぜられた叡山の法の灯火は、世々のひじりたちによって護られ、我国精神文化の上に不滅の光明を輝かせて来ましたことは、今更申す迄もありません。

開宗このかた日々護国の経文を講転して、国家の紹隆を祈り只管民衆の利福を念願し、国宝的人材をば育成せんとの祖師の御本意は、そのまま今日の叡山の願いであります。

遮莫昏迷のさ中にある世界の現状にかんがみて、叡山に課せられた要望と使命は、大なるものがございます。

この叡山今後の教学、信仰、経済、整備等真俗両面に渉る運営対策

につき、百年の規範となるべく恒久の指標をたまわり、限りなき慈護を仰ぐべく、茲に延暦寺奉讃会を結成致し度く、就きましては何卒尊台に発起人としての御高護を賜わります様伏して懇願申し上る次第でございます。

昭和三十五年八月吉祥日

比叡山延暦寺 即 真 周 湛

十月一日 香川県長尾町長尾寺（住職木村俊海）に於いては、本堂、大師堂、庫裡等の大修理が完成したので、その落慶法要が、天台座主猊下の御親修の下、宗務庁吉田録事、延暦寺学問所長山田大僧正、武総務部長、教区寺院五十人の僧が出仕して、多数の参列者の中、盛大厳粛に執行された。

十月<sup>自九</sup><sub>至十</sub>日 滋賀教区安土町東南寺に於いて、蒲北部主催による円頓戒が、座主猊下御親修の下、約三百人の檀信徒を集めて盛大に行われた。十月十日 京都御所へ土足参内し、玉体安穩の御加持を天皇陛下に捧げる玉体加持が、今年廻峯行一千日を満行した延暦寺一山玉照院木村

覚照阿闍梨によって勤められた。

十月十九日 大阪中之島中央公会堂に於いて午後一時から、親鸞聖人を讃仰する会が西本願寺の主催によって、千人の聴衆を集めて開かれたが、即真座主猊下もこれに御出席、「叡山と親鸞聖人」と云う演題のもとに約四十分になたつて講演され多大の感銘を与えた。この外西本願寺大谷光照門主、真言宗大原智乘管長、智恩院岸信宏門主、南禅寺柴山全慶管長の講演も行われた。

十一月九日 第二百五十世天台座主中山大僧正の一週忌法要が、比叡山阿弥陀堂に於いて即真座主猊下の御導師の下、延暦寺一山住職出仕して営まれた。

十一月十四日 日本大乘仏教発祥の靈地としての比叡山の一千百年にわたる不滅の法灯を護持し、仏教教学、堂宇の復興、経済、観光面等、比叡山の各方面に於ける態勢を整備拡充し、仏教を通じて国民一般生活の向上発展に資し、新しい時代の比叡山へ前進するために組織された延暦寺奉讃会（仮称）の名称を、比叡山延暦寺法灯護持会と正式に決

定し、その発起人会がこの日午後三時東京寛永寺本坊で、又廿四日午後三時大阪四天王寺で夫々開かれ、明年四月の正式発足を目ざして、関東、関西、中部地区の世話人を中心にしてその準備が進められる事になった。発起人には各界の有力者が参加し、明日の比叡山に力強い後援が期待されることになった。

昭和三十六年<sup>辛丑</sup>一月一日 座主猥下から、新年に当っての御挨拶が次の通りあった。

戦後国民道徳は廃退し殊に昨今は自由思想の履きちがえから、ややもすれば人としての常道を逸脱し、血腥き事件や、悪質の犯罪記事は日々、各新聞雑誌の紙面を賑わし、目を覆い心を寒からしめるものがあります。そうして又一方には新興宗教が各地に声を高くして叫び出され、一般人はその善悪邪正にも迷う次第でありますから、こういう時こそ吾が宗団人は、破邪顕正の声を大きくし僧俗一致となつて一層宗意の顕揚に精進し、祖風の発揮へ邁進して、文化の伸

張と社会平和獲得のために少しでもより多く貢献することが、我が宗祖大師への御報恩の誠を尽すものという事になると信ずるものがあります。

大師の御言葉にも「解脱の味独り飲まず、安楽の果独り証せず」とも仰せられ、また「志を同じうする者道を守り道を修し、相思い相待て」とも仰せられた金言は繰り返し拝誦して、躰解していただきたいのであります。

猶先年焼失致しました大講堂再建の着工が未だ其の運びに到らない事は、何としても宗祖大師に申訳の無い事であって、此の「天講堂こそは今日も猶、厳肅な勅会の行わるる大堂で、高祖天台大師及び宗祖根本伝教大師の御報恩のため法華十講の講筵が行われ、且つこの御法会中に於いてのみ、天台最極の法灯は古探題より新探題に以心伝心によって相伝授受せられ、我が天台の法灯は赫々連綿として今日迄厳かに伝承せられたのでありますから是非共挙宗一致で一日

も早く其の着工の事のみ、日夜念願して止まない次第であります。皆さんも幸に老衲が微衷を了せられん事を敢て新年に當って冀う次第であります。

一月自十五至十五日 「日光文化史展」が、大阪心斎橋大丸で、読売新聞と日光輪王寺の主催、文化財保護委員会、日光東照宮、日光二荒山神社の後援、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、比叡山延暦寺、四天王寺、栃木県、日光市、東武鉄道の協賛によって開催された。

一月廿一日 大阪貝塚市水間寺に於いて、兼住を発令された今春聴新任職の晋山式が挙行され、来賓として即真天台座主猊下始め、山中宗務総長、叡南延暦寺執行、福家園城寺長吏、三崎妙法院門跡、宗務庁と延暦寺の各部長、衆議院議員三木武夫氏、橋本貝塚市長、他財界、政界、文化界の諸名士千余名、並びに一般参詣者等数千人が参列した。三月十二日 去る昭和三十一年十月延暦寺大講堂焼失以来、過去五ヶ年間に亘りその再建に就いて、大講堂復興評議会や天台宗宗議会議会等

に於いて論議計画されて来たが、昨年の宗議會繼續審議會に於いて、「大講堂再建については延曆寺が主体と成って推進されたい」と云う決議が為され、これ迄の計画を根本的に改めざるを得なくなり、三月廿六日の宗会で大堂復興事務局規定が宗令をもって発令されることになり、延曆寺では三月十二日の一山會議の決定に基づき、山麓に在る讚仏堂を解体移築して再建を実現するため、技術専門家に委嘱して調査に着手することに成った。

三月自十三日  
至十七日 京都の名刹東山の三十三間堂では二十一年にわたる東大門及廻廊の新築、境内の整備等全般に及ぶ昭和の大修理がこの程完成し、その落慶大法要が天台座主猥下、三崎妙法院門跡の導師で嚴修された。法要は、法華千部会に始まり、中日は三崎門主導師による百僧供養の千手觀音曼供法要、十六日は座主猥下御導師による後白河法皇七百五十年聖忌法要（光明供錫杖）、並びに奉讚会々長五島慶太氏を始めとする大修理関係物故者の追悼法要が行われ、十七日の大般若会をもってこの慶讚大法要の幕を閉じた。

三月十五日 大阪四天王寺の復興再建事業は着々と進み、昨年の五重塔に引続き金堂の再建が見事に完成、この日奉賛会総裁高松宮殿下を招いてその竣工慶讃法要が行われ、延暦寺からも出仕僧十名が参列した。

四月一日 一週間にわたる長野県御視察旅行中の皇太子御夫妻は、午前十一時頃、御開帳で賑わう善光寺へ御成りになり、善光寺大勸進住職都筑大僧正の案内で本堂各所を御参拝になった。七年毎に行われる長野市善光寺の御開帳大法要は、この日幕をあげ、五十一日間行われ、集まる全国信徒のために毎日盛大な法要を営む事に成った。

四月二日 東京目黒滝泉寺仁王門新築落慶法要が行われた。

四月自十四至十一日 本年度御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下を始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、鎮将夜叉法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月自十五至十六日 和歌山県松見寺に於いて、十五日円頓授戒が即真天台座主猊下の御臨席を仰いで盛大に行われた。十六日、戒弟百二十名に

剃度度牒授与、授戒灌頂血脈授与等厳肅に執り行われた。

四月十八日 九州西教区大宰府の觀世音寺では、本堂と宝蔵の造営を手がけていたが、この程完成したので、即真座主猊下の御臨席を得て落慶供養大法要が営まれた。

四月廿五日 讚仏堂を解体し大講堂として移築する事に決定した延暦寺では、この日午前九時から即真座主猊下の御導師で讚仏堂解体本尊遷座法要を営んだが、来賓は谷口滋賀県知事、村田大講堂再建建築顧問等であった。解体工事は、各関係当局の許可があり次第着工されるが、是と同時に山上大講堂跡の発掘調査も進められることになった。

五月二日 日光輪王寺の本堂である三仏堂の解体修理工事は、総工費一億五千万円で、七ヶ年の歳月をかけて、この程ようやく完了したので、この日恒例の強飯式に続いて三仏の入仏落慶供養が盛大に厳修された。

五月十日 戦時中日本で殉難した中国人六千七百五十三人の名簿を中国へ持って行く奉仕団の一人として、東京都台東区永住町華蔵院壬生

照順住職が天台宗務庁から特使として任命され、天台山国清寺を訪問する事になり、同師を通じて即真座主からの「日中は再び戦わずとの誓を新たにしますものであります。云々」のメッセージと延暦寺からの伝教大師御絵伝が贈られる事になった。

同日 京都の真如堂に於いては、竹内大僧正の逝去に伴なう後任住職に、同山の中川真暢僧正を推薦、第四十九世貫首としての晋山式を、午前十一時から本堂に於いて行った。

五月十四日 比叡山法灯護持会の発会をかねた第一回総会は、延暦寺書院に於いて午前十時から、各發起人の出席を得て開かれ、ここに全国各界有力者による真俗一体の推進態勢が確立したのであるが、この会に於いて、即真座主を総裁に戴き、会長に杉道助氏、副会長には足立正氏、石川芳次郎氏、佐々部晚穂氏、その他幹事等が任命された。

五月廿四日 比叡山横川飯室谷の堂宇に電灯がつけられ、これで全山に電気が行き届いた。不動堂で行われた点灯式には延暦寺一山の総出仕をみ、信者約二百人がつめかける中、点灯のスイッチが入れられ

た。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて長講会が例年の通り座主猥下御証義の下厳修された。

六月五日 讚仏堂を滋賀県の文化財に指定するための調査がこの日現地で行われた。県文化財専門委員会の委員横山教育長、田中社会教育課長、小牧滋賀大学長等数人の委員が、服部文化財係長、現場主任金子技師等の案内で解体中の讚仏堂を視察、同日県の文化財に指定する事に決まった。

六月十四日 去る三月の天台宗定期宗会で、教学財団の設立等重要案件が宗制特別委員会に付託されたので、その第一回の特別委員会が、この日午前十時から宗務庁で開かれた。教学財団は宗内外から一億円を募集して財団を設立、天台教学の振興を図るものである。

八月十五日 比叡山延暦寺に於いて、座主猥下御導師の下、雲井昭善大谷大学教授と福井文雅大正大学講師の渡欧安全祈願法要が行われた。

八月十六日 第二室戸台風（台風第十八号）は午後最悪のコースをたどり大阪付近に上陸、滋賀県を通り湖国に鋭い爪跡を残して北陸方面へ去ったが、台風圏内が広いので各地の被害は大きく、被害の一宗末寺も相当多かった。比叡山もこの日約三時間、風速五十米の烈風にさらされ、延暦寺は昭和二十八年の十三号台風以来の大被害をうけた。その中には重要文化財等の山上諸堂もあるが、山麓の里坊も殆んど全部被害をうけ、比叡山の立木も約一万石が倒れた。

八月自廿一日至廿五日 滋賀教区西明寺住職権大僧正北角良澄は戸津説法を勤仕した。

九月十三日 比叡山西塔黒谷青龍寺（住職喜里山光観）に於いて、同寺慈恵大師開基一千年と法然上人七百五十年御忌法要が即真天台座主猊下御親修の下、一山僧出仕して、約二百人の参詣人と智恩院からの参列者の念仏の下で、厳かに弥陀曼供によって執り行われた。

十月六日 北嶺回峰千日大行満龍珠院住職小林栄茂阿闍梨は、この日

午前十時、即真天台座主猊下を始め延暦寺僧、信者と俱に古儀の行列を組んで、京都御所に参上し、石川所長の案内で小御所に土足参内して、玉体加持の秘法を奉修した。

十月自七日  
至八日 岐阜県山形郡高富町西深瀬慈明院（住職福生信善）では、新しく鉄筋で本堂が復興されたので、秋晴れのこの日天台座主猊下を迎えてその落慶法要が盛大に行われた。この式典には、梅山延暦寺副執行等が随行、二日間に亘って落慶法要と共に円頓戒授戒会を厳修、三百五十人の戒弟に血脈を授けた。

十月十五日 日本野鳥の会の会長中西悟堂（天台宗権僧正、東京都在住）は、長年の野鳥の研究保護に尽した功によって藍綬褒章を授与された。

十一月二日 陸奥教区東北大本山中尊寺本堂屋根銅板葺大修復完成慶讃法要が厳修された。

十一月五日 石川県金沢市医王山寺（住職井上行照）では、根本道場の建築が完成し、又阿弥陀堂の移築も完了したので、それらの落慶遷座法要が午前十一時から、即真天台座主猊下の御親修を仰ぎ、三浦善光寺

大勸進副住職、叡南延曆寺副執行等その外北陸教区各寺院住職が列席して行われた。

十一月九日 故天台座主中山玄秀大僧正の三回忌追悼回向法要は、比叡山上阿弥陀堂に於いて、即真天台座主猥下を始め、延曆寺一山僧侶、天台宗務庁員等が参集して嚴修された。

十二月八日 大講堂再建地鎮祭が、座主猥下御導師のもと一山僧侶の出仕にて執行された。

十二月十四日 アルゼンチン大統領訪日に当り日本仏教代表者十七名中の一人として座主猥下は御東上、目黒迎賓館で該大統領と接見された。

昭和三十七年<sup>壬寅</sup>二月十三日 第二百四十七世天台座主梅谷孝永大僧正の十七回忌法要が、京都妙法院に於いて、即真座主猥下の大導師によって嚴修された。

三月<sup>自</sup>至<sup>十三日</sup> 天台宗第十四回定期宗議会は、比叡山麓滋賀院で天台座主即真周湛大僧正猥下御臨席の下開会式を行い次のお言葉を頂い

た。

### 御言葉

本日茲に第十四回宗議会が開会せられるに当り議員各位には寺務多端の砌り遠路参集せられ御苦勞に存じます。

各位には一宗の選良として日夜その職分に精勵せられ、宗運の發展に尽されつつあることは洵に感謝に堪えません。

今や宗徒各位の絶大なる配慮により大講堂再建の工事も進められ、教学財団基金勸募も亦着々その成果を挙げつつあることは私の欣幸とするところであります。更に又慈覚大師一千百年の御遠忌を近く明春に迎えんとするのであります。この秋に際し宗徒たる者は宜しく宗祖大師開宗の大義に徹し、先徳の偉業をしのび愈々報恩の至誠を捧げ、宗学の振興と宗議の布衍に精進を重ね、相依り相扶け、社会福祉の増進と世界平和に貢献せられんことを懇望してやみません。茲に宗務当局はこれ等の意を体し緊要の案件を提出されたと聞く、各位宜しく慎重審議宗団の要望に応え以って祖恩に報ぜられんこと

を。

昭和三十七年三月十日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

四月自十一至十四日 本年度恒例御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、

座主猥下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等が参勤して、熾盛光法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十一日 延暦寺に於いて故鳥井信治郎氏の追薦回向法要が座主猥下御導師の下一山僧出仕して執行された。

四月十四日 兵庫教区第五部正福寺の本尊開扉法要と梵鐘再鑄の記念法要の御親教に、この日から三日間座主猥下が御臨席された。

四月廿五日 再建工事中の比叡山延暦寺大講堂の上棟式が午前十一時から即真座主猥下の御導師で嚴かに行われた。

四月廿九日 兵庫教区第一部善光寺の御親教に猥下は随員を滞同して赴かれた。

五月廿日 午後一時から孝道山仏舍利奉安十週年記念法要（舍利讚嘆

供養之攸) が、座主猥下御導師の下十口出仕して行われた。

五月廿五日 去る三十一年秋焼失した比叡山延暦寺の大講堂に安置されていた法然上人像の代りの御像が、智恩院から延暦寺へ贈られる事に成り、その奉獻大法要が岸門主御導師の下智恩院式衆によって盛大に営まれ、御尊像奉獻の目録が岸門主から即真座主に手渡された。因みに、三十三年日蓮上人像、三十五年真盛上人像の奉納に次いで、今回は第三番目の奉納式であった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猥下御証義の下嚴肅に執行された。

六月十一日 岡山県津山市大円寺住職清田寂坦は宗務総長に選ばれ、天台座主猥下から任命された。

六月廿四日 函館市春日町天祐寺(住職山口智雄)では、北辺の布教伝導の効果を一層大ならしめるため鉄筋による新しい様式の本堂を建てていたが、この程ようやくその内容外観の整備がととのったので、その落慶法要が午後一時から、即真天台座主猥下御親修の下道内天台宗寺

院住職等が列席して営まれた。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山仏乘院住職大僧正三浦義薫は戸津説法を勤仕した。

九月自廿四日至廿九日 文部省文化財保護委員会の「比叡山総合調査」は、比叡山の秘宝に解明のメスを加えるため三年計画で実施される事になり、その第一次現地調査がこの期間、文部省文化財松下隆章美術工芸課長等十五氏によって、東塔根本中堂を始め西塔横川等全山にわたって行われた。

十月八日 比叡山の麓旧讚仏堂横に在った鐘楼が山上阿弥陀堂前に移築されたが、之にふさわしい新しい梵鐘が栃木教区から延暦寺へ奉納されることになった。

同日 北嶺大行滿建立院少僧都宮本一乘阿闍梨は、千日を満行したので、此の日京都御所へ参内し、旧儀に則り玉体加持を奉修した。

十月十二日 東京都文京区駒込林町にある駒込学園では、今年が学校法人設立十周年に当るので、その記念式典が午後二時から、学園総裁

即真座主猊下を迎えて執行された。

同日 ニューヨーク市で日米仏教会議と世界六大宗教会議が行われ、本宗からは日光輪王寺門跡大僧正菅原栄海が日本側代表団の一人として参加した。

十月十九日 比叡山高等学校の講堂が完成したので午前十時からその落成式が座主猊下他六口出仕して挙行された。

十月廿八日 聖観音宗（浅草寺）、和宗（四天王寺）、大峯修験宗（金峰山寺）等関係宗派で結成している大乘連盟協議会が、比叡山上書院に於いて開かれた。

十月自廿九日至卅一日 天台宗教学大会と中央布教講習会が三日間の日程で、比叡山上宿院に於いて開かれ、慈覚大師中心の研究発表や布教講習が行われた。

十一月自三日至四日 比叡山の回峯行創始者である建立大師相応和尚の一千百年御遠忌大法要が、この兩日比叡山東塔無動寺谷明王堂に於いて行われた。

十一月五日 氣仙沼市観音寺（住職鮎貝真観）では、開基慈覚大師の讃仰大法要を即真天台座主猥下御親修の下、藺中尊寺貫主、陸奥教区内寺院住職列席して、約二千人の檀信徒が随喜する中で厳修された。

十一月<sup>自十一</sup><sub>至十一</sub>日 京都市東山青蓮院門跡（住職東伏見慈治）では、東伏見門跡の母君久邇侘子さんと姪君東久邇成子（照宮）さんの御忌法要を行った。

十一月廿三日 群馬県泉蔵寺（住職桑原興教）では、多宝塔式の鉄筋コンクリート納骨堂が完成したので、即真座主猥下を大導師に仰ぎ、東伏見青蓮院門跡、都筑善光寺大勸進を副導師として、その落慶法要と、慈覚大師千百年遠忌讃仰法要とを営んだ。

十一月廿五日 群馬教区主催の御親教大法要が午前、午後の二回にわたって渋川市真光寺に於いて行われた。行列準備会場の遍照寺より御親教会場の真光寺まで大行列を組んで入場、猥下には先ず本堂前の塔婆開眼を修されて本堂に御入堂、慈覚大師千百年の御遠忌法要として法華懺法を奉修された。大法要に相い会する檀信徒等の数は約二千名

であつた。

十二月一日 来春四月に大講堂落慶供養並びに慈覚大師一千百年遠忌大法要が行われるに當つて次の諭示が座主猊下から發せられた。

諭 示

恩徳報謝の至誠を運ぶことは正法興隆の要道、末葉繁榮の肝心積善福恵の第一義であります。我が宗第四祖慈覚大師は夙に宗祖伝教大師の真精神を繼承して天台仏教を円成せられた宗門の大聖祖であります。

大師は山に在つては籠山の制に服して、祖意を体得し、地方に巡化しては經を講じて衆庶の心蓮を開き、開拓授産文化を進めて民衆の生活を温め、詔を拜しては、捨身の苦難を重ねて唐土に仏法の秘奥を求め、天台座主に任ぜられては三朝帝の師となつて大戒を王公貴頭に伝授するなど祖意を發揚すると共に、真諦門に於いても蘇悉地の法を伝承して真言密教を完成し法華総持院に闍梨を定置して顯密一致を具現し、引声念仏を伝えて浄土の門を開き顯揚大戒論を著し

て菩薩の大戒が僧尼に平等なるべきを示し、悉曇の典籍を移入して大乘教の根柢を開明し、声明を伝えて法儀を莊嚴し、懺摩の法を立てて止観の行を薦めるなど仏教発展の要素を残るところなく完備せられました。ただに仏教のみならず日本文化今日の発展に至る元本を築かれたことは仏教徒はもとより全国民が斉しく感謝せなければならぬ鴻業であります。

明年大師の一千百年の祥忌を迎えるに当り祖山に於いては陽春を期して大法要を嚴修せんとする際地方に於いてもよろしく寺檀一致一乘和合の精神に則り大師の高徳を敬仰感謝して報恩謝徳の法要を修し伝道布教に専念して社会の善導に努め以って宗徒としての本分を全うせられんことを切望するものであります。

昭和三十七年十二月一日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

十二月八日 福島県田村町金剛寺（住職伊東寂曇）では、昭和二十年の戦災で本堂が焼失し、その後再建に努力して、この程完成したので、そ

の落慶供養が、即真座主猊下の御親修を仰いで、福島教区第二部住職一同出仕して、法華三昧によって嚴そかに修せられた。

十二月十日 座主猊下は再建される比叡山大講堂前に石灯籠一基を御寄進されたが、左記六師も浄土院前の参道に石灯籠一对づつをそれぞれ奉献された。奉献者は、日光輪王寺菅原栄海門主、京都妙法院三崎良泉門主、比叡山滋賀院叡南覚誠門主、上野輪王寺浦井亮玄門主、京都三千院水谷教章門主、信州善光寺大勧進都筑玄妙大僧正である。十二月十八日 擬講大僧正菅原栄海は已講に補任された。

昭和三十八年<sup>癸卯</sup>一月十日 望擬講大僧正塩入亮忠は擬講に補任された。

一月十三日 比叡山上阿弥陀堂に於いて、午前十時半から、慈覚大師壹千百年御遠忌速夜法要（常行三昧之攸）が、座主猊下大導師の下一山総出仕で嚴修された。

一月十四日 比叡山阿弥陀堂に於いて、午前十時半から、慈覚大師壹千百年御遠忌御祥当法要（法華三昧之攸）が、座主猊下大導師の下一山総出仕して嚴肅に執行された。

三月十八日 比叡山大講堂に於いて、名古屋市大黒寺大沢円覚住職から奉納された宗祖大師尊像の開眼法要が営まれた。

同日 姫路市書写山円教寺に於いて、兵庫教区主催の慈覚大師一千百年御祥忌慶讃法要が、天台座主猥下御親修の下盛大に厳修された。

三月廿三日 比叡山上阿弥陀堂鐘台に於いて、午前十一時から鐘台落成並びに梵鐘供養法要が、座主猥下御導師の下一山僧出仕して盛大に行われ、菅原日光輪王寺門跡、清田宗務総長が参列した。因みに、この梵鐘は日光輪王寺から延暦寺阿弥陀堂へ寄進されたものである。

三月廿五日 比叡山上大講堂に於いて午後二時から、智証大師御尊像奉安法要が寺門宗長吏御導師の下厳修され、この後奉納授受の式が行われ、天台座主から寺門宗長吏へ御受書が手渡され、寺門宗長吏から天台座主へ奉納書が渡された。

四月一日 比叡山大講堂に於いて午後一時から栄西禪師の御木像の奉安式が、建仁寺派竹田益州管長御導師の下で行われ、同管長と即真天

台座主との間に奉納目録授受の式が行われた。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主

猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、七仏薬師法を厳修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十二日 比叡山大講堂に於いて、曹洞宗から奉納された道元禪師尊像の奉安式が厳修された。

自四月十九日至五月十二日 総本山比叡山延暦寺に於いて慈覚大師千百年御遠忌並大講堂落成慶讃大法要が厳修された。

大法会の導師は座主猊下を始め門跡、各宗管長の勤仕で各特有の法要を営み、日々盛んに法楽を捧げた。

法要目次は左の如くである。

四月十九日朝座 大講堂落成慶讃四箇法要附今様歌舞楽奉納於大講堂

四月 廿日朝座 御本尊法楽胎藏界曼荼羅供養会 於大講堂

同 日夕座 和宗大本山四天王寺慶讃法要附舞樂奉納 於大講堂

四月廿一日朝座 慈覚大師御影供法要附献茶式 於大講堂

同 日夕座 吉野大峯修驗宗大本山金峯山寺慶讚法要

於大講堂庭前

四月廿二日朝座 慈覺大師舍利讚歎供養會

於大講堂

同 日夕座 天台寺門宗總本山園城寺慶讚法要

於大講堂

四月廿三日朝座 天台真盛宗總本山西教寺慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 叡山講々員物故者總回向法要附全國詠歌奉詠大会

於大講堂

四月廿四日朝座 鎮護國家祈願大般若轉謊會法要

於根本中堂

同 日午前 聖觀音宗大本山淺草寺慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 淨土真宗大谷派本願寺慶讚法要

於大講堂

四月廿五日朝座 曹洞宗慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 各宗祖師報恩會光明供都錫杖法要

於大講堂

四月廿六日朝座 孝道教団慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 山家大師報恩會講經論義

於大講堂

四月廿七日朝座	本宗檀信徒諸願成就祈願藥師秘密供	於根本中堂
同 日午前	淨土宗慶讚法要	於大講堂
同 日夕座	日蓮宗慶讚法要	於大講堂
四月廿八日朝座	世界平和鎮国安泰祈願藥師護摩供	於根本中堂
同 日午前	淨土真宗本願寺派本願寺慶讚法要	於大講堂
同 日夕座	天台修驗道世界平和祈願採灯護摩供	於大講堂庭前
四月廿九日朝座	本宗檀信徒各家祠堂総回向法要	於大講堂
同 日夕座	臨濟宗大本山建仁寺慶讚法要	於大講堂
四月卅日朝座	前唐院御講密教論義	於大講堂
五月一日夕座	万国英靈追悼回向法要	於大講堂
五月三日朝座	宗祖伝教大師御影供法要 附献茶式 「裏千家家家元宗匠」	於大講堂
五月五日夕座	北領修驗回峯行者報恩供養法要	於大講堂
五月七日朝座	妙見宗大本山本滝寺慶讚法要	於大講堂
五月十二日朝座	桓武天皇御講声明饑法 附献茶式 「表千家家家元宗匠」	於大講堂

於大講堂

この他 玄清法流琵琶法儀奉納

於大講堂

四月廿一日 慈覚大師千百年御遠忌法要執行中の比叡山延暦寺に、ライシャワー駐日米国大使夫妻及びパワース公使夫妻が訪れ、大講堂で厳修された慈覚大師御影供に参列し、午後西塔方面諸堂を訪れた。

四月廿六日 新大講堂に於いて、孝道教団による大講堂落慶、慈覚大師一千百年御遠忌法要が、岡野統理の導師の下、信徒五百余名の参加随喜の裡、莊嚴に行われたが、この後、孝道教団から延暦寺へ奉納される聖徳太子御木像の目録の贈呈の儀が行われた。

五月一日 陸奥教区主催慈覚大師千百年御遠忌報恩法要に座主狛下が御親教された。この日午前十時中尊寺本堂で法華三昧を、午後毛越寺本堂で法華三昧を夫々奉修し、翌二日午前九時より中尊寺金色堂解体修理遷座法要を御親修された。

五月四日 茨城教区主催慈覚大師千百年御遠忌報恩法要が岩瀬町羽黒月山寺において天台座主代理山田恵諦大僧正の御導師で行われた。

五月自廿六日至廿七日 比叡山無動寺弁天堂に於いて、御本尊奉祀千百年記念法要が、天台座主猥下御親修の下五十人の僧が出仕して盛大に嚴修された。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猥下御証義の下嚴肅裡に執行された。

六月五日 別請広学堅義は山上大講堂に於いて、午後二時から六日午前五時迄の間嚴修された。

業 弥陀報応 副 八教撰不

探 題 滋賀院門跡 大僧正 叡 南 覚 誠

堅 者 南光坊住職 大僧正 塩 入 亮 忠

一の問 恵日院 大僧正 菅 原 栄 海

二の問 松禅院 大僧正 山 田 恵 諦

三の問 禅定院 大僧正 藤 支 哲 道

六月六日 已講大僧正菅原栄海は探題に補任された。  
擬講大僧正塩入亮忠は已講に補任された。

六月十九日 上野寛永寺一山本覚院大僧正大照晃道は上野輪王寺門跡に任命された。

六月廿三日 叡山学院に於いて午前十時から叡山学会の研究発表会が行われた。

六月廿七日 延暦寺一山大僧正叡南祖賢は延暦寺執行に任命された。

七月一日 権大僧正平了照、権大僧正勝野隆信、権大僧正関口慈光は各々勸学に任命された。

七月廿二日 延暦寺一山禪定院住職大僧正藤支哲道は滋賀院門跡に任命された。

八月自一至六日 天台宗教学部主催の第一回ボーイスカウト指導者講習会並びに研修会が、比叡山麓滋賀院門跡に於いて開催された。

八月自廿一至廿五日 善光寺大勸進大僧正都筑玄妙は戸津説法を勤仕した。

八月卅日 全日本仏教会が招待した中華民国仏教訪問団（团长白聖大師）の一行八名は、比叡山に登山参拝し、山上書院に一泊し、翌日下山した。

九月一日 明德院住職中山玄雄は叡山学院々長に任命された。

権大僧正葉上照澄は比叡山行院々長に任命された。

九月十日 望擬講大僧正山田恵諦は擬講に補任された。

同日 大照晃道大僧正の輪王寺門跡兼寛永寺住職晋山式が行われた。

九月自十二日至十三日 兵庫教区御嶽山清水寺で座主猊下御親修の下で円頓授

戒会が行われた。

九月自廿九日至卅日 比叡山延暦寺戒坦院に於いて大乘円頓授戒会が嚴肅裡

に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 妙行院大僧正 梅山 円了

教授師 止観院大僧正 叡南 祖賢

十月自一日至五日 この五日間法華大会広学暨義が行われた。

臨 監 勅使旧堂上華族 清岡 長言

探 題 天台座主大僧正 即真 周湛

同 惠光院大僧正 叡南 覚誠

同 日光輪王寺門跡大僧正菅原榮海

已 講 喜多院大僧正 塩入亮忠

擬 講 恵心院大僧正 山田恵諦

会行事 星光院大僧都 小堀光詮

十月自八日至九日 岡山県鴨方町明王院に於いて、三千人の宗徒を集め盛大

な御親教法要が催された。八日は、午前十時から慈覚大師千百年御遠

忌法要が厳修され、九日は、午前十時から全国戦歿英霊追悼法要が営

まれ、十日は、午前十時から檀信徒先祖供養会が執行された。三日間

とも、午後一時から円頓授菩薩戒会が親修された。猯下には森定延曆

寺庶務部長、山田延曆寺学問所長等が随行した。

十月十三日 京都市左京区浄土寺真如町真正極楽寺に於いて、座主猯

下御親修の授戒会の典儀が、午前八時半から午後四時迄続けられ、五

百人の戒弟に「おかみそり」が授けられた。出仕者は、赤松天台宗庶

務部長、武延曆寺部長、三崎妙法院門主、山口曼殊院門主等であった。

十月廿日 横浜市港北区日吉本町金蔵寺に於いて、座主猯下御親修の

円頓菩薩戒会が執行され、千人以上の戒弟に「おかみそり」が授けられた。猯下には、葉上延暦寺副執行、井深大堂復興局係長が随行した。十一月九日 栃木県下都賀郡壬生町壬生寺に於いて座主猯下御親修の大法要が営まれた。午前十二時、オープンカーの猯下は、詠歌講、武者行列、稚児等の先頭で宿舎から壬生寺本堂に入られ、教区内寺院住職の出仕による慈覚大師千百年御遠忌大法要を御親修、この後戒弟八百名に「おかみそり」を御授けになった。猯下には葉上延暦寺副執行等が随行した。

十一月十日 日光輪王寺で御一泊された座主猯下は、栃木県下都賀郡岩舟町大字小野寺大慈寺に御参拝、延暦寺から当寺に奉納される御戸張の目録を加藤住職に手渡された。この後、伝教大師六所宝塔の一方である現存相輪様に懇ろな法楽を捧げられた。

十一月自十三日  
至十五日 日光山輪王寺の三仏堂の修理は、去る昭和二十九年三月から始められ三十六年三月に完成されたが、その落慶法要がこの期間盛大裡に行われた。第一日は、日光三社合行供が菅原門主御導師

の下日光一山総出仕によって嚴修された。参列の来賓は、文部省文化財保護委員長河原春作氏、栃木県知事横川信夫氏、日光市長佐々木耕郎氏等であった。第二日は、慈覚大師千百年御遠忌大法要が営まれ、天台座主代理滋賀院門跡藤支哲道大僧正が参列して祝辞を述べられた。その他随喜焼香の来賓は、清田宗務総長、清水谷浅草寺貫主、三崎妙法院門主、塩入喜多院貫主、大照上野輪王寺門主、若水栃木教区長、叡南延暦寺執行等であった。第三日は、檀信徒所願成就のための大護摩供大般若転読会が奉修され、多数の随喜者があった。

十一月十四日 大津市文化財専門委員会（会長景山春樹）は、比叡山横川の慈恵大師御廟等を対象にした文化財調査を行った。

十二月十日 比叡山上の新大講堂に於いて、新大講堂落慶大法要終了報告式、並びに御本尊、脇侍及び各宗祖師御尊像奉安報告法要が、午前十時半から営まれた。本尊は京都の大仏師松久朋琳氏によって刻まれ、去る九月廿六日奉安され開眼供養されたが、脇侍の観音、弥勒の

二尊像も十月五日聖観音宗浅草寺と和宗四天王寺からそれぞれ奉安された。

十二月十一日 比叡山延暦寺、上野東叡山輪王寺、日光山輪王寺の三山で組織する三山会議が、上野輪王寺で午後二時から開かれた。この日、延暦寺叡南執行、中山、梅山、叡南三副執行、日光輪王寺菅原門跡、荻原執事長、上野輪王寺浦井門跡、杉谷執事長等が集まり約三時間にわたって懇談した。

昭和三十九年<sup>甲辰</sup>一月八日 延暦寺で午前十一時から、恒例の年賀式が、即真座主猥下を始め延暦寺一山住職、宗務庁役職員、各界来賓参加のもとに行われた。

一月廿五日 滋賀院門跡勸学大僧正藤支哲道は遷化した。

二月八日 延暦寺では、毎年正月の鏡餅のおさがりを社会施設へ寄附して来たが、今年は坂本西教寺にある真盛養老院へ寄付した。

二月廿六日 奈良国立博物館で開催された「密教法具展」に比叡山の

山内寺院所蔵の法具を出陳した。因みに、叡山文庫からは金銅五鈷杵三口を出陳した。

二月廿九日 延暦寺一山松禪院住職大僧正山田恵諦は滋賀院門跡に任命された。

三月二日 比叡山高等学校同中学校（校長矢田部四郎）の卒業式は、例年の通り午前十時から同校講堂に於いて、天台座主猥下を始め、谷口滋賀県知事等多数の来賓を迎えて行われた。

三月三日 ライシャワー駐日米国大使夫妻は、慈覚大師ゆかりの栃木県岩舟町大慈寺と壬生寺を巡拝し、慈覚大師の幼少期を偲んだ。尚同大使は宇都宮高校で、「円仁に続け」との講演を行った。

自三月八日  
至四月十九日 大阪市立博物館で開かれた「印刷の歴史」の特別展に、延暦寺からは、叡山文庫所蔵の鎌倉期の刊行書や、宗存版、天海版、叡山版等十一点を出品した。

三月十二日 叡山学院の卒業式が例年の通り同学院講堂に於いて、午前十時から、天台座主猥下の御臨席、宗務総長等来賓参列のもとに行

われた。

三月十八日 比叡山延暦寺大講堂に於いて、午前十時から、安然和尚（五大院の先徳）一千五十年御遠忌法要（常行三昧之修）が、滋賀院門跡山田大僧正御導師の下一山大衆総出仕で厳修された。

三月廿六日 三岐教区では本末一如の実を具現する為本山で集團得度式を行う事になり、本山大講堂に於いて天台座主猊下御戒師の下執行された。新得度者は八名であった。

三月廿七日 坂本滋賀院に於いて第十六回宗議会が開かれた。

四月一日 宗祖大師御生誕の地比叡山麓坂本の生源寺は、西塔の総里坊として西塔によって護持されて来たが、時代の推移に依じて、四月一日から延暦寺直轄の大堂として、輪番制によってその機能を發揮する事になった。又毎月、御本尊十一面觀音の縁日であり伝教大師の御誕生日でもある十八日に、一山大衆出仕して法要を勤め、その後で仏教講話がなされる事になった。

四月二日 旧比叡山中学の山家寮の跡に比叡山中学校の鉄筋コンクリ

ト三階建の校舎が新築される事に成り、その着工式が午後一時から止観院叡南祖賢御導師の下執行された。

四月<sup>自四</sup>至<sup>十一</sup>日 本年度恒例御修法大法は、総本山の根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、普賢延命法を厳修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月八日 去る昭和三十七年文部省文化財総合調査によって比叡山及び山麓寺院に所蔵されている文化財が明らかにされたが、今回その中の十点が、文化財保護委員会から重要文化財に指定された旨通知があった。指定された十点は次の通りである。

- 一、相応和尚像図（無動寺明王堂）、二、木像四天王立像二軀（西塔釈迦堂）、
- 三、木像大黒天立像（律院所有）、四、金銀鍍水瓶（横川弘法寺）、五、銅水瓶（聖衆来迎寺）、六、刺納衣（延暦寺叡山文庫）、七、糞掃衣（延暦寺叡山文庫）、八、尾長鳥ぬいふち花文錦打敷（延暦寺叡山文庫）、九、法華経（横川弘法寺）、十、法華経（聖衆来迎寺）

四月十二日 京都東山妙法院門跡に於いて昭憲皇太后尊儀五十周年御

法要が行われた。

同日 セイロン文化大臣等が比叡山を訪れ、中堂、浄土院に参拝して、書院で座主猥下と対談後下山した。

四月廿日 名古屋大黒寺の大沢円覚住職及び檀信徒の努力によって、延暦寺の新大講堂に桓武天皇の御尊像が奉安された。その奉安式は午後一時から、天台座主猥下御導師の下一山僧侶出仕して、宗務総長等参列の中厳肅に行われた。法要後、猥下と寄進者との間に御尊像授受の儀式があった。

四月廿日 慈覚大師研究(論文集)が天台学会から発刊された。

四月自廿至廿四日 叡山講大法要が例年の通り比叡山延暦寺に於いて厳修され、多数の参詣者があった。

五月八日 比叡山西塔の法華堂、常行堂の解体大修理起工式並びに遷座法要が、同堂に於いて午前十一時から、天台座主猥下御導師、一山住職出仕で、来賓多数参列のもとに厳修された。

同日 釈尊の御誕生を祝う花祭が、比叡山上では一月遅れのこの日、

各堂に於いて行われた。

五月十日 比叡山法灯護持会物故者総回向が、比叡山上大講堂に於いて午前十一時半から、座主猥下御導師の下一山僧出仕によって厳修された。

同日 法灯護持会第四回総会が比叡山延暦寺書院に於いて、座主猥下の御臨席の下で開かれた。

五月十四日 比叡山大講堂に於いて、慈覚大師御影供が午前十時半から、即真座主猥下御寄進の慈覚大師御尊像宝前にて、猥下の御導師の下、一山大衆総出仕で厳修されたが、兼ねて、中国天台山国清寺から西山景文、大河内隆弘両師に托され将来寄進された細字法華経一部の奉納式が行われた。因みに、中国天台山では今回慈覚大師の一千百年の御遠忌法要を執行して、法華経を遙々比叡山に寄進したのである。

五月廿二日 奥比叡開発株式会社（社長佐々部晚穂）では、昭和三十七年夏東塔から横川を経て仰木峠に通ずる新しいドライブ・ウェーの建設を計画して、既に滋賀県、大津市の強力な賛助の下に、建設省、厚生

省、文部省、運輸省へ認可の申請を出していたが、今回文化財保護委員会からその建設の許可があり、他の省からも免許が下り、茲に正式決定と成った。

五月卅日 孝道教団の青年会館の新築に際して、延暦寺から天台座主 貌下の御染筆「孝道」の扁額が寄贈され本仏殿御宝前にかかげられた。その折、孝道山からは比叡山大講堂へ四人掛椅子百二十五脚の寄贈があった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主貌下御証義の下殿修された。

六月十六日 午後一時二分、新潟、山形、秋田地方を中心にして東北地方、関東地方にかけて大地震が発生したので、本庁から渡辺録事、延暦寺から武副執行等が十七日夕方急遽出発、現地へ向ったが、宗内寺院には大した被害は無い様であった。

六月廿二日 滋賀院に於いて勸学集会が開かれた。

六月廿八日 叡山学会では、叡山学院に於いて研究発表と総会を開い

た。

七月八日 この程比叡山延暦寺に於いては、延暦寺教学財団を設立して、広く一般宗徒の育成と併せて教学振興に寄与する事になったが、天台座主猥下はこの趣旨に賛同され、金壹百万円をこの財団に寄付された。

同日 比叡山上大講堂に於いて、午前十時半から、海外日系人物故者孟蘭盆法要（光明供錫杖之伎）が、天台座主猥下御導師の下十二口出仕で厳修された。

七月自十八日至廿八日 第一回比叡山大講堂仏教文化講座が三百名の会員を大講堂に迎え、杉道助氏の開会挨拶によって幕が開けられ、三日間に亘り諸講師の熱弁がふるわれた。因みに講師は、山田恵諦、加藤弁三郎、梅原真隆、塚本善隆、水谷教章、平沢興、山田無文の諸氏であった。

七月自廿七日至廿七日 比叡山林間学舎が例年の通り延暦寺宿院で行われ、近畿各地から合計一千八百八拾余名の小、中学校生徒が参加した。

七月廿四日 去る昭和三十五年の全但バス比叡山上遭難者の慰霊法要

が、比叡山上阿弥陀堂に於いて、座主貌下御導師の下しめやかに執行された。

八月一日 東西本願寺を始め浄土真宗全派によって結成されている真宗各派協和会によって、親鸞聖人尊像が大講堂へ寄進されることになり、その奉安法要が大講堂に於いて、五百有余人の門徒衆が合掌念仏する中、連枝大谷昭乗御導師の下式衆多数参列して、莊重に行われた。

八月廿一日 英国人J・L・ブリンクリー氏は逝去した。氏は昭和二十三年宗学研究家として権僧正を贈られていたが、今回逝去によって僧正に贈補された。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山止観院住職大僧正叡南祖賢は戸津説法を勤仕した。

九月三日 孝道教団では、秋の「お修行」を比叡山でつとめる事になって、九月三日から、四百五十名づつ四団に分れて登山して、各団は

夫々二日間靈氣の中での修行に励んだ。猶、今回の修行登山を記念して孝道教団から延暦寺教学財団へ金壹百万円が寄附された。

九月自十二日至十四日 天台宗寺庭婦人講習会が比叡山上宿院に於いて開かれた。

九月廿六日 天高く澄み切ったこの日、比叡山書院に於いて、天台座主猥下の喜寿祝賀会が、宗務庁代表谷教学部長及び延暦寺一山住職全員が集って、ささやかに開かれた。

十月四日 津金寺に於いて探題大僧正池田長田大和尚の葬儀が行われた。

十月十六日 天台宗教学大会が、本山の宿院大広間に於いて、座主猥下を始め、宗務総長、延暦寺執行、勸学の出席を迎えて、聴衆約七十名参加のもと開かれ、七名の研究発表があった。

十月廿六日 奥比叡ドライブ・ウエーの起工式（地鎮秘密供之伎）が、大講堂裏の式場で、座主猥下の御導師の下延暦寺一山大衆出仕して、施主である奥比叡参詣自動車道路会社々長佐々部晚穂氏、施工者大成建設会社専務木下氏等参列して行われた。

十月卅一日 比叡山蓮華院住職権少僧都堀沢祖門は、去る昭和二十七年以来伝教大師所定の十二年籠山中であったが、この日無事一紀籠山を満願した。

十一月六日 比叡山中学校第二校舎が新築され、その竣工式が座主親下御出席の下、延暦寺執行、副執行等も参列して、盛大に挙行された。十一月八日 延暦寺法儀音律研究所では、今度日本グラマフォン社の要請によって、芸術祭参加作品として天台声明を吹き込み、長時間レコードとして完成発売される事に成った。

十一月十五日 京都の真正極楽寺（真如堂）に於いて十一月五日から行われていた「お十夜会」の結願法要が賑やかにつとめられた。因みに、全国の寺々で行われているお十夜は真如堂から起ったものと云はれている。

十二月十五日 東京読売新聞社主正力松太郎氏発願によりセーロンから寄贈された仏舍利、御聖髪の回向法要が、読売ランドの釈迦殿に於いて午後二時から、天台座主親下が御導師となって、正力社主始め諸

外国大使に同席して天台宗各役職員も多数参列随喜する中、巖かに執り行われた。法要後深大寺講の御詠歌が奉納された。

十二月十九日 上野寛永寺一山権大僧正杉谷義周は宗務総長に任命された。

十二月廿一日 比叡山法灯護持会会長であった故杉道助氏の追善回向法要（常行三昧之修）が延暦寺に於いて午後一時から、天台座主猥下御導師の下一山住職出仕して厳修された。

昭和四十年<sup>乙</sup>二月八日 昨秋芸術祭参加作品として吹き込まれた、天台

聲明に対し、この程芸術祭賞が与えられた。

二月廿七日 近畿教区主催の円頓授戒会並びに結縁灌頂は天台座主親修のもとに和歌山県下津市善福院に於いて勤修された。

座主猥下には、廿六日正午滋賀院本坊を森定教学部長、武延暦寺副執行、上野教学課長等を随行して出発され、加茂郷駅で兼平宗務所長、市野善福院住職、同寺檀信徒総代その他大勢の出迎えを受けられ、御宿所善福院庫裡に到着された。猥下には南紀の一夜を明かされ、午前

十時同寺庫裡階上仏間に於いて円頓授戒会を奉修され、一〇五人の戒弟にそれぞれ剃度された。午後一時から本堂宝前に内道場を設け中山大僧正教授師となり、教区内寺院住職出仕の下に結縁灌頂が行われ、猊下は正覚壇にあって実相念仏の直授相伝を行われた。廿八日猊下御一行は、戒弟の整列して見送る中を御出発、帰路つつがなく帰山された。

三月十四日 滋賀教区円如寺に於いて、本堂新築落成法要が営まれた。当日は天台座主御親修の下に円頓授戒会が勤まり、宗務総長を始め来賓多数が参列して盛大であった。

今月、東塔東谷五智院上に六〇〇坪にわたって、第一回比叡山仏教文化講座受講者の寄附による記念植樹が行われた。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は、総本山延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選抜者、山内住職等参勤して、鎮将夜叉法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十七日 座主猊下は中支天台山を始め北京等へ御訪問の為坂本を

出発された。

四月十八日 慈覚大師御遠忌を記念して、昨年四月訪中した日本仏教会の長老西川景文、大河内隆弘両師に托して、中国天台山国清寺から中国仏教協会を通じて、総本山延暦寺に微細楷書の法華経が上納贈呈された答礼として使節団が四月廿七日正午B・O・A・C機で香港經由で出発する事になった。この度の使節団は高祖大師の御宝前に報恩の勤行をつとめ、感謝の誠意を表わす事が目的で、即真周湛座主猊下を団長に、杉谷義周（宗務庁代表）、佐伯秀胤（宗議会代表）、梅山円了（総本山延暦寺代表）、壬生照順（秘書長）、今井玄崇（団長秘書）の六師から成り、四月十八日午前十一時から東京上野寛永寺で結団式を行った。

四月廿七日 答礼使節団の出発歡送式が午前十時四十分から羽田空港ロビーで行われた。浜名徳有師の司会で東京教区宗務所長の歡送の辞、天台保育連盟所属の幼稚園児と孝道教団から花束の贈呈があり、杉谷総長、延暦寺叡南祖賢執行の挨拶があった。浅草寺清水谷恭順師の音頭で万才が三唱され、一行六名は元氣よく、タラップを上り、雲一つ

ない好天気の中を一路香港に向った。(午後四時五分無事香港に到着)。当日の見送りは宗務庁、延暦寺、日光輪王寺、上野寛永寺、浅草寺、孝道教団、日中友好協会、宗務所長、宗議会議員、東京、神奈川両教区寺院、各教区布教師会、保育連盟所属幼稚園、保育園児及び父兄等数百名の多数であった。

四月廿八日 座主猥下御一行は、午前八時三十七分九龍を汽車で御出発、同十一時十分深圳に入り、訪中入国の第一歩を印し、趙朴初居士代理中国仏教協会国際組長陳仲瑤氏、及び通訳商家龍氏の挨拶を受けられた。同日午後三時過ぎ広州に着き、六榕寺住持雲峰法師、広東省平和委員会秘書長欧錦氏、及び広州宗教事務處秘書牟筠女史等の出迎を受け、宿舍群愛大厦に入られた。

四月廿九日 午前十時、座主猥下御一行は広州六榕寺に御参拝、同十一時広州市の烈士の墓に参拝された。午後四時二十七分広州市白雲飛行場を出発、同六時二十分杭州飛行場に到着、中国仏教協会副会長居士周淑迦氏、杭州仏教協会副会長靈陰寺住持性空氏外僧十名の出迎を

受けられた。

同日 比叡山横川の行院落慶入仏式が、午前十一時から、叡南延暦寺執行の導師の下三塔院内出仕で厳修された。

四月卅日 中国訪問中の座主猥下御一行は、この日、杭州市内各所や催物等の見学をされた。

五月一日 午前八時四十分座主猥下は随行と共に杭州最大の寺院靈陰寺に御参拝、香料及び記念品を進呈された。同十一時四十分から歓迎中食会に出られ、午後二時半から西湖に舟遊された。

五月二日 座主猥下は随員と共に午前八時杭州飯店から中国側差廻しの車四台に分乗して待望の天台山へ向われる事になった。十二時三十分には嵯県を御出発、約二時間後天台山に入られた。午後三時国清寺に御到着、鐘や太鼓のならされる中、住持澹雲大法師の御案内で本堂へ進まれ、大雄宝殿に御参拝、高祖大師の御前に自我偈一卷を誦誦して感激の焼香をなされた。午後四時国清寺から山上の真覚寺廟へ車を連ねて御出発、五時十分真覚寺の門をくぐられた。先づ白琳監院の御導

師で、猊下御一行の来山を告げる法要が、太鼓の音に和して約十分間行われ、引続き猊下始め随行僧は高祖大師の御廟前に額き投地礼拝され、猊下はしばしの間御声も出ない程感涙にむせばれ、舍利礼文、自我偈を奉誦された。

五月三日 国清寺大雄宝殿に於いて午前八時三十分から、国清寺僧衆によって座主猊下御一行歓迎大法要が執行され、引続き座主猊下御導師の下一行一同によって高祖大師報恩謝徳大法要が厳修された。法要終了後、猊下は持参の記念品等を、杉谷総長立合の下、澹雲大法師に親しく御渡しになり、引続き佐伯宗会議長が訪中答礼の宗会決議文を朗読、中国側も澹雲大法師から猊下に数々の記念品の御贈与があり、後本堂前で記念撮影があった。午後二時猊下御一行は、同寺の鐘太鼓がならされる中、国清寺僧衆に見送られ、杭州へ向かわれ、帰途、嶺県、紹興の両県で休憩され、同七時三十分杭州飯店に帰着された。因みに、即眞猊下と澹雲大法師との間に交された記念の詩偈は左記の通りである。

天台山国清寺へ

天台鐘秀白雲峰

聖跡靈場苔色濃

垂涕仰觀千載後

奇巖怪石旧時容

参拝中国天台山国清寺

日本天台座主第二百五十一世

大僧正周湛薰沐拜手

日本天台宗訪華団へ

延曆寺即国清寺

比叡山是天台山

両宗伝統法縁在

難得同袍到此間

当公元八百零五年間即我国唐順宗永貞元年特有日本最澄伝教大師来我

国天台山国清寺学習天台宗教觀後到日本即指比叡山為天台山在山上建一寺名国清寺作為留學我寺紀念現在又承即真周湛法師率領日本天台宗訪華代表團來寺訪問使我回憶到過去中日兩國人民友誼文化歷史傳統法緣之余賦此以贈紀念

公元一九六五年五月

天台山国清寺住持澹雲

同日 東京教区安養院で、本堂落慶大法要が、天台座主代理日光輪王寺門跡菅原栄海大僧正導師の下、盛大に営まれた。

五月四日 座主猥下御一行は、午後五時四十五分杭州駅から特別列車で上海に向われた。同九時三十分上海に着かれ、駅では、上海仏教協會副会長玉仏寺葦舫法師他十余名の出迎を受けられ、和平飯店に着かれた。

五月五日 座主猥下御一行は、この日上海の各所、諸施設等を見学された。

五月六日 座主猥下御一行は、午前八時三十分から上海の重型器庁他

を見学され、午後二時三十分上海仏教会々長持松法師住職寺真言系常安寺に参拝された。

五月七日 座主猊下御一行は午後五時上海少年宮を見学され、同七時上海市仏教協会主催の歓迎晩餐会に出席された。

五月八日 座主猊下は随行僧と共に、午前八時三十分上海玉仏寺に於ける灌仏会に参拝された。法会は、先づ中国側の法要が行われ、引続き猊下御導師の下一行によって法要が執行された。午後三時二十六分、御一行は上海仏教協会長持松法師、同副会長章舫法師等約二十名の見送の中、特別寝台車で南京に向け出発された。同七時十六分南京に御到着、駅頭では、南京仏教協会長毗盧寺方丈映徹法師、同副会長棲霞寺方丈光鑑法師等の出迎を受けられ、南京飯店に入られた。

五月九日 座主猊下御一行は、午前八時三十分、映徹方丈、光鑑方丈の案内で中山陵に参拝された。同十時二十分、南京郊外の臨済系棲霞古寺に参拝され、午後は雨花台公園内に在る殉難烈士の大墓碑に花輪を捧げ御回向され、又夕刻、南京の毗盧寺を訪問された。猶、南京仏

教会主催の歓迎晩餐会に出席された。

五月十日 座主猓下御一行は、午前八時三十分光鑑法師の案内で南京市の東北の玄武湖公園を訪遊された。午後四時二十分北京飛行場に着陸され、中国仏教協会副会長阿旺嘉措活仏、同副会長北京広濟寺巨贊法師他二十余名の出迎を受けられ、四十分後民族飯店に到着された。

五月十一日 座主猓下御一行は午前九時三十分から、中国仏教協会石鳴珂秘書長、商通訳の案内で、故宮の参観に行かれた。午後六時中国人民共和国全国人民代表大会代表、中国仏教協会副会長兼秘書長趙朴初居士が飯店に猓下を訪問、挨拶を交わされた。

五月十二日 猓下御一行は、午前七時三十分北京郊外の仏舍利塔に参拝され、同十時趙朴初氏の案内で万寿山に登られた。午後三時三十分最後の正式訪問地であり、中国仏教協会の在る、北京広濟寺に到着の御一行は、中国仏教協会副会長趙朴初居士、同副会長阿旺嘉措法師、同副会長周淑迦居士、宗教事務処員等の出迎を受けられ本堂に入堂された。本堂に於いて日中友好世界平和大祈願法要が執行された。先づ

中国側法要は広済寺住持の巨賛法師大導師の下六十名の黄衣の僧によつて行われ、直ぐ後、猓下御導師の下御一行の祈願法要が厳修された。引続き中国側趙朴初居士から歓迎の挨拶があり、佐伯宗会議長が天台宗会の訪中についての決議文を朗読し、続いて猓下から、杉谷総長立合の下、中国側阿旺嘉措副会長に対して、伝教大師御絵伝、延暦寺綜覧、如法衣、墨宝、輪袈裟、猓下の御染筆等を贈られ、中国側からも猓下に対して、釈迦像、大線香、如法衣等の贈与が行われた。同五時三十分同寺の鐘、太鼓の音に送られて飯店へ帰られた。御一行は同六時五十五分、郭沫若氏の招待で国民大会堂新疆省の間に於いて催された歓迎晩餐会に出席され、郭沫若氏の口添えによって、周副会長の案内で国民大会堂内を參觀された。

五月十三日 猓下御一行は午前六時十分、見送りの人々と名残を惜しみつつ、北京飛行場から広州に向け出発され、午後一時二十五分広州飛行場に到着された。御一行は午後七時から、広州仏教協会主催の晩餐会に招待され出席された。

五月十四日 座主猥下御一行は、午前七時三十分、多数の見送りの中、深圳行きの特別列車に乗車され、同十時深圳に到着された。午後一時二十五分羅湖発九龍に向われ、午後二時三十五分香港に御到着、金門ホテルに着かれた。

五月十五日 猥下御一行は午前中香港各所を御見学、午後三時金門ホテルを出発され、香港飛行場に向われた。同八時二十五分無事羽田に帰着され多数の出迎を受けられた。斯くして猥下御一行は、今回の画期的な天台宗訪中答礼団の予定行事を総て完遂してその任務を果され、日中両国仏教徒友好親善の道に固き足跡を残されたのである。

五月十六日 比叡山大講堂で午前十一時半から、比叡山法灯護持会物故者総回向が座主猥下御導師の下執行された。

五月十九日 午前十時半、座主猥下は、訪中使節団の全員、並びに生田法務部長、羽場宗議会副議長、教区宗務所長と共に比叡山上祖廟に御参拝、天台山参拝の御報告を申し上げられ、同十一時半、山上書院に於いて、宗内諸師参列のもと、訪中答礼団の解団式を挙行した。

五月廿日 勸学集会在滋賀院に於いて、福井院長始め、勸学九人、宗務当局全員参集のもとに開会された。先づ事務局長森定慈紹師開会を宣言、次いで座主猥下の御言葉があり、次に天台山参拝について座主猥下、並びに杉谷総長の報告があつて議事に入った。議題の宗祖生誕千二百年記念法要宗祖千五十年大遠忌の指導原理については担当者を決めて慎重に研究した上来る七月末の第二回勸学集会在於いて大綱を決定する事を約して四時過ぎ散会した。

六月四日 比叡山浄土院に於いて、午前十時から、長講会が例年の通り座主猥下御証義の下巖修された。

六月自十四日至十八日 延暦寺に於いて新しい試みとして一山住職の中堅及び若手住職の練成会が二部に分けて催された。第一部は十四、十五、十六の三日間十四名が参加し、第二部は十六、十七、十八の三日間十六名が参加し、自主的修行に専注し効果的であつた。

六月自廿七日至廿九日 三日間 昨年に引続き第二回中央寺庭婦人研修会が比叡山上宿院に於いて開会された。寺ぐるみの教化活動をより活発に推進

するため、時代即応の措置を講じて寺院の在り方についても進んで體質改善へと宗団の近代化を計ると共に寺庭婦人としての責務を認識し、その覚悟を新たにして、特に今回は、全員が天台座主猊下を戒師として得度受戒と僧籍登録が出来得る様にして、その地位を明らかにし、任職を補佐して簡単な檀務にたづさわり、布教の一端をも担当する能力と資格を具備して、次代を担う子弟の養成に熱意をもって挺身する事を力強く誓い合い、予期以上の成果を始めた。

六月廿八日 比叡山大講堂に於いて、午前十時から、寺庭婦人会円頓戒剃度式が、座主猊下御親修の下厳肅に執行された。

六月廿九日 比叡山行院の遂行式が、午後一時から、座主猊下御導師の下執行された。

七月一日 滋賀県比良山上サンケイバレー山開祈願法要が、止観院叡南大僧正導師の下執行された。

七月七日 根本中堂に於いて午前十一時半から、比叡山自動車道交通安全厄難消除祈願法要（薬師護摩供之惣）が止観院叡南大僧正導師の下厳

修された。

七月自十七日  
至十九日

第二回比叡山延暦寺仏教文化講座は山上大講堂に於い

て開催された。出席の講師は、勝野隆信、茅誠司、藤井日静、井上靖、

朝比奈宗源の諸氏であった。

七月自廿二日  
至廿八日

宗務庁主催のボーイスカウト合宿訓練が滋賀院で約三

十名集会して実施された。

七月自卅一日

比叡山麓滋賀院門跡に於いて、勸学集會が開かれ、福

井、清水谷、塩入、山口、荒樋、山田、中山、勝野、平、関口の各勸

学が出席した。因みに福井院長の任期満了によって、山口光円勸学が

新院長に選出された。

八月自廿一日  
至廿五日

三千院門跡大僧正水谷教章は戸津説法を勤仕した。

八月自廿六日  
至廿八日

天台宗務庁、天台保育連盟主催の第十四回全国保育大

会が延暦寺会館で開催された。

九月自三日  
至八日

孝道教団比叡山修行参拝団法要が毎日座主猊下の御導師

の下厳修された。

九月八日 この程来山した南ヴェトナム古山門派総書記並びに義方寺  
任職大徳釈智心師は、比叡山浄土院での修行に入った。師は三年間在  
山して大乘仏教を研鑽する予定である。

九月十一日 比叡山上宿院に於いて、午前十時から、檀信徒宿院解体  
並びに新築起工式（地鎮秘密供之儀）が座主猥下御導師の下厳修された。

九月十八日 台風二十四号が襲来し、山麓本坊二階書院の屋根が飛散  
し、高塀等が倒壊した。

十月三日 滋賀教区大正寺（任職大橋良七）では、開山大正念院及誉上人  
三百五十回忌法要が、天台座主猥下大導師の下部内寺院総出仕で、頗  
る盛大且つ厳肅に勤修された。

十月五日 群馬教区大蔵院に於いて午前十時から、伝教大師一千二百  
年御生誕慶讃法要並びに円頓授戒会が、桐生部檀信徒会、大蔵院檀信  
徒会の共催の下、座主猥下の御親修に依り盛大に奉修された。戒弟は  
約一千人に及んだ。座主猥下には、森定教学部長、桜井延暦寺法務部  
長、上野教学課長等が随行した。猥下は平井山荘で第二夜を明かされ、

翌朝九時、御親教役職員を初め関係者の御見送りのもとに、自動車で小山駅へと向われた。

十月六日 狛下御一行は桐生部御親教に引続き、小山駅から福島へ向い、福島駅で笈宗務所長、中村宗会議員、高松大僧正その他役職員の出迎えを受け、直に自動車で宗務所観音院へ御到着、東北で一夜を明かされた。

同日 大津市坂本々町梅林に於いて、延暦寺厚生寮起工式（地鎮秘密供之儀）が、止観院叡南大僧正導師の下執行された。

十月七日 福島教区観音院に於いて午前十時から、天台座主狛下を戒師として、福島教区主催寺庭婦人集団得度式が盛大に行われた。因みに、得度受戒者は笈清子外四十八人であった。当日婦人代議士粟山女史の激励の祝辞があった。午後一時から教区伝導師の集団得度式が行われた。受戒者一〇五人は、居士から僧侶へと覚悟も新たに教化の一端を担って希望にもえる第一歩を踏み出した。

十月八日 福島教区福島市御山、葉王寺（住職山河信海）に於いて、教区

主催伝教大師千二百年御生誕慶讃法要並びに薬王寺本堂、庫裡修理落慶法要が天台座主猥下御親修に依って行われた。改修成った本堂で法華三昧の厳儀が荘重且つ厳粛に執り行われた後、随行布教師室生貞信の法話があった。

猥下には福島駅発特急で上野駅へ御到着、駅頭で杉谷宗務総長、羽場副議長、小林録事等が御出迎え、直に自動車で東京駅迄御見送り、その夜新幹線で道中つつがなく帰還された。

十月十五日 日本武道館に於いて天皇皇后両陛下の御臨席を得て行われた、国民参政七十五周年、普選四十周年、婦人参政二十周年記念式典に際して、南総教区滝泉寺住職権大僧都永野高敬は、選挙管理委員会委員長として選挙管理執行に尽した功績により、藍綬褒章受賞の栄を得た。

十月自十八日  
至十九日 東京都豊島区大正大学に於いて天台宗教学大学が開催された。

十月自廿一日  
至廿九日 三日間 第四回中央布教々化研修会は、比叡山麓滋賀院

門跡に於いて開催された。開会式に当り座主猥下から、伝教大師の御遺誠である「吾が為に仏を作ることなかれ、吾が為に経を写すことなかれ、吾が志をのべよ」と仰せになった、その志を述べる事こそ布教師の本務である旨の御言葉を賜り、大遠忌を迎えるに当り感激を一層新たにして研修会の幕を開き、熱心真剣に終始し無事研修を終了した。

十一月三日 東京教区徳正寺住職権大僧正佐野広中は、十一月三日地方自治の功績により勲五等双光旭日章の叙勲の御沙汰があり、十二日宮中に於いて、天皇陛下に拜謁、優渥なる御言葉を賜って叙勲の光栄に浴した。

十一月九日 第二百五十世天台座主金剛慈心院玄秀大和尚七回忌法要が、延暦寺本坊に於いて午前十一時から、座主猥下御導師の下一山僧出仕して厳修された。

十一月十三日 神戸市会下山善光寺（住職高阪盛純）で、開山英盛上人三十三回忌法要並びに梵鐘撞初め大法要が、天台座主大僧正猥下御親修のもとに莊嚴且盛大に執行された。猥下には、森定教学部長、武延暦

寺総務部長等が随行した。法要は午後一時から天台座主大僧正調声、部内寺院総出仕で常行三昧が厳修され、続いて午後二時から梵鐘撞初法要が行われ、秋日和の快晴の下に善男善女多数で境内を賑わした。十一月十四日 岐阜県垂井町、朝倉山真禪院（住職中川円喜）に於いて、本地堂、三重塔、鐘楼、修理落慶大法要が天台座主猥下を迎えて盛大に厳修された。

猥下には早朝七時滋賀院を御出発、上野教学課長、延暦寺から渡辺恵進、森川宏映等、が随行した。法要終了後天台座主猥下から、奉讃会々々長岐阜県知事松野幸泰、奉讃会委員長西脇弘康、奉讃会世話人委員長井川欣一の三氏に対し感謝状並びに記念品の贈呈があり、一同感激裡に式を閉じた。

十一月廿五日 今般宗務庁、延暦寺、信越教区の補助金と中津川市並びに地元神坂部落の協力により、去る昭和三十三年の開宗記念法要の事業として宗祖大師開基の広済院趾に建立された広済院顕彰碑の周囲

にブロックの玉垣が立派に完成し、周辺も美しく整理された。その落慶法要は午後秋雨の中、都筑善光寺大僧正導師の下に地元信越教区小山宗務所長、本多宗議会議員等多数出仕し、森定教学部長、三岐教区相生宗会議員、中津川市長等の来賓、地元神坂部落の人々等百余人参列して、厳かに執り行われ、その後、施工者に感謝状の贈呈、経過報告、祝辞等があり、一、一五〇余年前の宗祖大師の御偉業を偲び乍ら夕刻盛会裡に終了した。因みに、地元には本宗寺院も檀信徒もないが、地元民から土地の提供や心からの奉仕があつた。

昭和四十一年丙午一月一日

昭和<sup>丙午</sup>歳元旦 周湛恭賦

宗祖降誕一千二百年慶讚因于

新年御題「声」

出世一千二百年 声高法鼓響人天

甚深微妙一乘教 顕密止観根本全

一月十八日 延暦寺叡南執行一行は、京都市右京区山内に在る伝教大師旧蹟を訪れ読経供養して、御生誕一千二百年慶讃大法要を奉修する旨を御報告した。今回比叡山法灯護持会員である駒垣一良氏が、この由緒の地百六十五坪を七百万円で購入して妙徳院を建てる事になった。一月廿六日 本宗立教開宗の佳日を卜して、座主猊下は宗徒に対して、本年八月に宗祖大師御生誕千二百年の佳辰を迎えるに当り諭示を發せられた。

### 諭 示

本年八月、宗祖伝教大師御生誕一千二百年の佳辰を迎うるに当り、宗祖の本懷を継承して宗意を顯揚せんがために、衷情を披いて宗徒各位に告ぐ。

宗祖伝教大師は、我が国仏教が隆萎の岐路に直面せる重要なる時機に出現し給い、桓武聖帝の叡願のもと、国家と国民の性情に適應せる四宗一源の我が宗を開創し、鎮護国家住持仏法のために、高く比

叡山上に山家の學風を宣揚して、千百有余年の永きに亘り、一隅を照すの人師を天下に相續せしめて、國家の文化を向上し、國民を利導するの恩沢を垂れさせられたことは、千古無比の大聖者として、歴世の緇素俱に深く敬慕し、感謝するところである。

然しながら仔細に仏教の実情を顧るに、叡岳の枝葉は八宗の名に於いて榮え、真言の宗と共にその教化全国に風靡すと雖も、時流の推移は消長を伴うて、外教の禁止は仏教独善の弊を生み、国政の庇護は宗教活動を次第に習慣化して教化の効を損じ、廢仏棄釈の難に遭うと雖も、猶その眠り醒めず、惰性を以って今日に至るの感あり。

その上、發達したる物質文明は、思想を低下せしむると共に、宗教信念を稀薄にして世人の心に安住なく、道義の癡類は、人命を輕視し、孝道を侮蔑するの徒を横行せしむる等、慨嘆すべき世情をもたらすに至りたるは、一に以って教家の微力に基因するを免れず。

この秋に當り、宗祖御生誕一千二百年の佳辰を迎うこと、正しく祖

意恢弘の靈勅なり、宜しく之を奉けて一致団結、従来の弊風を一掃すると共に時局適應の教化を施して隨情違理の徒輩を善導し、青年の教化と國家觀念の養成に力を集中して、宗祖が理想とせられたる大乘國家の建設に邁進せんことを期す。

宗徒各位、不惜身命の誓いを宗祖に致して祖風を宣揚し、以って千載一遇の佳辰を嚴らんことを。

昭和四十一年一月廿六日

天台座主大僧正 即 真 周 湛

同日 かねて東京教区内青年宗徒によって準備が進められていた、天台仏教青年会発会式が、開宗記念日のこの日午後六時から東京寛永寺で挙行された。当日は、杉谷宗務総長を始め八名の來賓と會員六十名の参集があった。

二月十日 第九回宗務所長會議は滋賀院門跡に於いて、午前十時から午後四時迄開催された。

二月十八日 大僧正叡南祖賢は延暦寺執行に任命された。

三月六日 滋賀県甲賀郡櫛野寺（住職三浦俊英）では、宝物収蔵庫が完成したので、その落慶法要が真即座主猊下御親修の下執り行われた。

三月廿八日 比叡山上浄土院の修理起工式が午前十一時から行われ宗會議員全員が登山参列した。

三月卅日 大阪府南泉寺（住職権僧正津守良海）を会場として、円頓授戒式並結縁灌頂が厳修された。天台座主猊下には早朝七時、延暦寺法曼院大僧正中山玄雄、本庁録事小林昭延、教学課長上野智信等を随え、春雪の降る中を坂本を出発し、十一時南泉寺へ御到着、門前に兼平宗務所長並びに教区内住職初め、檀信徒及び戒弟等多数出迎える中会場へ御入場、直ちに円頓授戒会が執行され一人づつ懇ろに剃度された。次いで午後一時から内道場で結縁灌頂が行われ、投華得仏が厳修され、座主猊下は正覚壇に在って実相念仏の直授相伝を行われた。この法縁に浴する者一〇〇人を超え仲々の盛況であった。

四月一日 去る第十八回宗議會に於いて宗務庁規程が改正され、この日から教學部に社会課が新設された。社会課では、青少年教化、社会福祉及び公益事業、共済及び災害、広報活動、宗勢の調査等の事務を行ふこととなり、特に宗祖伝教大師千五十年大遠忌並びに御生誕千二百年慶讃法要事業の主眼である青少年教化の活動と相俟って今後の活躍が期待される。宗祖大師の御精神を現代に普及徹底させるため特に青少年への教化を中心に「一隅を照す運動」が提唱され、忘己利他の精神を強調するため、現代寺院の方向づけや教化対策を考慮することになった。又寺院仏子の育成と後継者に悩む人々の相談に応じて出来るだけの世話をする相談所が開設され、先づ今年度に於いては養子縁組等に重点を置く事になった。

同日 京都市下京区高倉通真宗仏光寺派本山仏光寺に於いて、仏光寺第三十代の法嗣彰師の得度式が行われ、即真座主猊下は古来からの法式に従いその証誠として御参列、大師堂を埋め尽した仏光寺関係の一人門信徒と共に慶祝の意を表せられた。

同日 京都祇園歌舞練場での都おどりのフィナーレに比叡山横川の桜がとりあげられ、伝教大師御生誕千二百年の賑いをPRした。

同日 延暦寺一山妙行院住職大僧正梅山円了は比叡山高校校長に任命された。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等が参勤して、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十七日 滋賀教区金剛輪寺(住職権僧正浜中光志)に於いて、午前十時から宗祖大師一千二百年御生誕教区慶讃法要が、午後一時から御本尊開扉法要が、天台座主猊下御導師の下殿かに奉修された。杉谷総長、叡南執行、森定教学部長等が随行した。

四月廿四日 兵庫教区能福寺(住職僧正雲井弘善)に於いて、今般諸堂宇及び境内が整備されたので、之を記念して円頓授戒、並びに諸堂宇落慶々讃法要が、天台座主猊下を拝請して殿かに行われた。

四月廿九日 比叡山麓「仰木トルゲート」に於いて、午前十時半から、

奥比叡參拜自動車道路竣工開通式が、座主猥下御導師の下執行された。  
五月一日 中尊寺の秘仏開帳法要が嚴修され、又、今春聴新貫主の晋  
山式が本堂で行われた。

五月三日 「延暦寺秘宝特別展」が、大師関係及び比叡山関係の秘仏、  
秘宝を東京、名古屋、大阪に於いて公開展示し、比叡山の紹介と、大  
師精神の高揚を期するため開催された。時期及場所は左記の通りであ  
る。

期日 五月三日～八日まで 大阪

五月十日～十五日まで 名古屋

六月七日～十二日まで 東京

場所 各松坂屋（東京は銀座の松坂屋）

主催 法要事務局、毎日新聞社

五月廿二日 比叡山上大講堂に於いて、午前十一時から法灯護持会物  
故者法要が座主猥下御導師の下嚴修された。

五月廿四日 比叡山横川恵心堂（横川仮中堂）が、午後三時三十分頃火魔

に襲われ、全焼した。焼失した恵心堂は約二十四坪、江戸末期の建造物であった。御本尊聖観音立像は秘宝特別展に出展中であつたので難を免れたが、脇侍の不動明王木像、毘沙門天木像、慈慧大師木像、恵心僧都木像は焼失した。

五月卅日 僧正武覚円は比叡山行院々長に任命された。

六月四日 比叡山浄土院に於いて、長講会が午前十時から、座主貌下御証義の下殿修された。

六月十七日 滋賀院門跡に於いて、伝教大師幼形像仮奉安式が、座主貌下御導師の下殿修された。

六月十八日 延暦寺一山会議に於いて、去る五月廿四日焼失した恵心堂の再建を決議し、約五百万円で工事を進める事になつたが、当面の目標としては、山麓の別当大師堂を横川へ移築して恵心堂とすることになつた。

六月廿日 宗祖大師御生誕一千二百年慶讃大法要記念切手として、根

本中堂図入りの六十円切手が、この日発売された。

六月廿八日 この日の台風四号による風水害は、特に神奈川教区に多大の被害をもたらしたので、本庁は、被害状況の調査と見舞のため小林録事を派遣した。その結果左記の寺に被害がある事が判明した。

横浜南部光明寺（住職傍島毅堂）は、本堂半壊、庫裡傾斜、玄関大破、内部荘嚴具凡て破損建具畳等使用不能と云う、被害総額一千五百万円と見込まれる大被害を蒙った。

神武寺（住職土屋慈順）は裏山の土砂が崩壊して境内を埋め、相当の被害をうけた。

自六月卅日  
至七月六日 山形市立石寺に於いて、昭和二十三年以来途絶えていた灌頂が復興され、本山法曼流継承指導教授中山玄雄大僧正等を迎えて行われたが、入壇二十名、開壇二十六名、結縁灌頂二百八十名の受者があった。

七月一日 奥比叡ドライブウェイの沿線中の勝景の地に在る峯道駐車

場に、建坪約一六〇坪の「峯道レストハウス」が営業を始めた。猶、奥比叡を通る路線バスの許可が京阪バスと江若バスに下り、七月九日から開通することになった。

七月一日 延暦寺では、大法要を機会に檀信徒の宿泊施設として親しまれて来た宿院本館の改築を、昭和四十年十月十五日に一億一千二百万円の予算で着工し、急ピッチで完成を急いで来たが、この程ようやくその工事も終り、鉄筋コンクリート造り、クリーム色のスマートな近代設備のととのった新館が完成した。この延暦寺会館の竣工式は、午前十時から、天台座主猊下の御導師の下に一山大衆出仕して、杉谷宗務総長、中野京都商工会議所名誉顧問、鳥井サントリー社長、西田大津市長等多数の来賓を迎えて、厳かに修された。因みに、同館は和洋両室合わせて六十一室六〇〇人の収容力がある。

七月廿日 宗祖伝教大師御生誕千二百年慶讃大法要並びに御入寂千五百年の御遠忌を記念して比叡山西塔の本覚院に「居士林」が開設さ

れた。この道場は在家仏教推進の根本道場として、檀信徒並びに一般在俗の人々に伝教大師のお教を体得させ、「在家の菩薩」の道を自覚してもらう事を目的とするものであり、今年三月十九日西塔釈迦堂政所に於いて、実質上始められたものである。

七月自廿三日  
至廿五日 比叡山上大講堂に於いて、第三回仏教文化講座が開催された。出席の講師は、塩入亮忠、塚本哲、大谷光紹、中野種一郎、小倉遊亀、出口常順の各師であった。

七月卅日 宗祖伝教大師御生誕千二百年を奉讃して左記の通り音楽会が開催された。

大師讃歌製作 作詩 土岐善磨 作曲 清水 修  
音楽発表会時期及場所

四十一年七月卅日(土曜日) 東京上野文化会館

四十一年九月十七日(土曜日) 京都会馆

この日会場に根本中堂の「不滅の法灯」が即真座主の奉持によって奉

祀された。

八月自二日至四日 比叡山釈迦堂に於いて、如法写経会が座主猊下御親修の下開かれ、結願の後参会会員の物故者回向法要があり、続いて法華塔開眼埋経法要が厳修された。

八月自七日至八日 天台宗保育連盟の園児登山参拝が、今年度から行われる事になり、その第一回が実施された。

八月自十七日至十八日 第一回滋賀県下小中学生大師奉讃献書展覧会が、大遠忌行事の一つとして、大師の御遺徳を偲ぶと共に青少年教化の意味をかねて開催された。

八月八日 比叡山麓坂本生源寺に於いて午前十一時から、天台宗保育連盟が寄進した伝教大師幼形像（木彫極彩式、等身大、錦戸親観作）の奉安式が、天台座主大僧正大導師のもとに延暦寺一山、保育連盟関係者の出仕、全国選抜の園児二百名の稚児行列、比叡山高校中学生徒の楽隊、合唱隊の先導、保育関係職員、園児の母、姉並びに来賓各位等総員約

七百名によって執行された。この法要は先づ延暦寺本坊（滋賀院）を行列で出発し、生源寺まで練供養し、道場に到着して、大師尊像の除幕、大導師の開眼、園児の献花、讃仰歌の合唱、読経等の順で行われた。

八月十日 京都市右京区山ノ内にある伝教大師母君妙徳夫人の生地と伝えられる縁りの土地に寺が建てられ、妙徳院と名付けられた。駒垣一良氏が、坐禅石の辺り七百坪程の土地を購入、二間四方の御堂と庫裡を自費で建立したもので、此の日延暦寺からは、即真座主猊下を始め杉谷宗務総長、叡南執行、武副執行等が参列して妙徳院の落慶を祝った。

八月十七日 宗祖大師御生誕前夜祭には、夕方から比叡山高校、中学生徒、幼稚園児、坂本学区民等による坂本地区提灯行列、楽隊鼓笛合唱隊行列が行われ、生源寺に於いては大師奉讃の法華三昧が厳修された。

八月自十八日 天台宗檀信徒の子弟を祖山に招待参拜させ、伝教大師

の御精神を少年少女の心に布衍する趣旨で、今年度から四十五年度迄毎年四百名を祖山に集めて研修会が催される事になり、その第一回が開かれた。

八月十八日 宗祖大師御生誕当日午前十時から天台宗檀信徒子弟代表、男女合計五百名による法楽法要が奉修され、全教区から選抜招待された子弟五百名が生源寺に参集、讃仰歌、心経等を称えて大師を奉讃した。叡中鼓笛隊、比叡山幼稚園児はこれを出迎え、先導した。午後一時から、伝教大師御影供が天台座主猥下大導師の下各門跡、大寺、一宗役員、一山総出仕して厳修された。先づ出仕者一行は、滋賀院より稚児を先頭に、練供養して生源寺に到着、コーラス、献茶等により、大師御影供が奉修され、来賓各位の焼香、挨拶等があった。午後三時から、生源寺に於いて小、中学生の献書、献画の表彰式が行われ、午後七時から常行三昧、詠歌奉詠、奉納余興が行われた。猶、生源寺を中心に坂本一带に、旗、提灯、吹散等が建てられ、一带に慶

祝ムードが盛り上げられた。

天台宗総本山比叡山延暦寺内伝教大師千百五十年大遠忌並びに御生誕千二百年慶讃法要事務局編の天台宗「青少年の手帳」が発行された。

八月十九日 寺院住職として五十年以上勤続して寺門興隆に尽した者、並びに一宗公職を歴任して宗内発展に尽した者に対する褒賞は、第十八回宗議会に於いて予算化され、その第一回の表彰式が宗祖伝教大師御生誕千二百年慶讃法要のこの日に行われた。表彰式は、住職勤続者代表兵庫教区普門寺前任萩原孝全に賞状と記念品（銀盃）が、公職勤続者代表南総教区妙音寺住職浅野航海に賞状と記念品（特別三諦章付輪袈裟）が座主狛下から授与され、続いて神奈川教区大久保良頭と近畿教区兼平真海がそれぞれを代表して謝辞を述べ、総長の挨拶、延暦寺執行の祝辞があつて式を終了、引続いて叡中体育館に於ける祝賀パーティーに移り、代表者によるスピーチ等があり午後三時過ぎ終了した。因みに、褒賞該当者一八二名に案内状が発送されていたが、相当の老令者が多

く、又盂蘭盆会の行事等もあって、当日の参列者は約五十名にとどまった。

八月廿日 総本山の呼びかけで「伝教大師連盟」が結成され、かつて天台宗に属していた宗派、寺院二十一ヶ寺、二団体が大師御生誕二百年を機会に結束を固め大師の御教、御遺訓の下一体の宗教活動を進めて行く事になった。この日一行は午前十時から生源寺に於いて、鞍馬寺信楽管長御導師の下大師御生誕を慶祝する法楽を捧げ、車で登山し浄土院へ参詣、聖廟に敬虔な焼香を献じた後、山上書院での第一回会合に臨んだ。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山妙行院住職大僧正梅山円了は戸津説法を勤仕した。

九月五日 大僧正赤松円瑞は比叡山行院々長に任命された。

自九月廿四日至十月二日 延暦寺灌頂が無動寺灌室で厳肅に行われた。

九月廿五日 この日伊豆半島に上陸した台風二十六号は、山梨県から

中部関東地方を北上して各地に甚大な災害の爪跡を残したのであるが、特に本宗に於いては日光山内の被害を始め、栃木、群馬、埼玉、神奈川等各教区に渡る広範囲な地域に、稀有の惨害をもたらした。本庁から、十月九日、具に現地を視察すると共に懇ろな見舞をするために、上野社会課長が慰問使として派遣された。その結果左記の如き被害が判明した。

日光三大廟の別所龍光院は、床下まで殆んど土砂で埋まる惨状にあった。立木観音の石碓流失の惨状は啞然とする程で、取除き作業だけで五百万円は要るとのことであった。群馬教区宝門寺、長楽寺、大蔵院は各々甚大な被害を受けた。

自九月卅日 至十月二日 三日間 新装なった比叡山延暦寺会館に於いて、第三回中央寺庭婦人研修会が開会された。又大講堂で座主猊下を戒師として四十数人の寺庭婦人が厳肅裡に得度受戒した。

十月一日 かねてから宗議会や教区等から要望のあった、過去幾多の

大戦に於いて宗内教師で戦死或は戦病死された方々の慰霊に就いて、昨年来その実態の調査を行った所、今日迄に一四九名の戦歿教師について遺族及び師僧等から報告があった。これ等の英霊に対し宗団としていささかなりとも御慰霊を為す事と成り、秋期彼岸会に際し、宗務総長の挨拶状を付け、叡山香三束が夫々に献香された。

十月九日 比叡山西塔居士林（本覚院）で、本覚会が催され、座主猊下が御臨席された。

十月十日 比叡山横川恵心堂跡に延暦寺文化財収蔵庫が建てられる事になり、その起工式（地鎮秘密供之儀）が、座主猊下御導師の下執行された。

十月自十五日至十六日 両日に亘り真盛宗総本山西教寺に於いて天台宗教学大会が開催された。第一日目の十五日午後一時から、天台学会員、真盛宗々学寮の講師、叡山学院学生等七十名が参加し、殊に真盛宗管長、延暦寺代表、三崎宗機顧問、佐伯宗議会議長、塩入、荒樋両勧学の来賓

を迎えて開会の式が行われ、続いて研究発表があり、終つて西教寺食堂で懇親会がもたれた。又両日共、叡山学院、比叡山高等学校が当番校となり、西教寺を会場として大蔵会が開催され、恵心僧都関係秘宝約七十点、西教寺宝物約三十点が展観された。猶十六日午後一時から、十河泰隆師が「真盛上人と往生要集」について、福井康順師が「新戒律試論」について、記念講演を行った。

十月十六日 比叡山上大講堂に於いて、午前十時から、各宗祖師像奉安三十五周年献茶式法要（法華三昧之悠）が、座主猊下御導師の下執行された。

十月自廿九日至卅一日

第五回中央布教々化研修会は祖山延暦寺会館に於いて開会された。各教区から布教師会長、教区から推薦された布教師、聴講希望布教師等六十名の参加を得、三崎宗機顧問、延暦寺執行、佐伯宗議会議長、清水谷勸学の来賓を迎え、廿九日午前十一時開会式が挙行された。開会式に当り座主猊下から「宗祖大師御生誕一二〇〇年慶

讚の諸行事も、宗徒諸師の赤誠溢れる尽力により盛大に行われた事に對し共に欣びたい、と共に来る昭和四十六年に迎える一一五〇年の大遠忌に當りては、尚一層布教の振興を計って祖恩に酬い奉る事は布教師の本務である」。との御言葉を賜り、一同感激を新たにし、終始熱心に研修し無事終了した。

十一月<sup>自一日</sup>至<sup>自二日</sup> 日光山輪王寺開山勝道上人一千百五十年御遠忌並びに日光山開創一千二百年慶讚大法要が、午前十一時から、日光山の大本堂（三仏堂）に於いて、同山門跡大僧正菅原栄海大導師の下盛大裡に挙行され、約十万の参詣人が勝縁に浴した。

十一月<sup>自十五日</sup>至<sup>自十三日</sup> 岡山県教育委員会と山陽新聞社では、比叡山延暦寺と天台宗岡山教区の各寺院の協力を得て、伝教大師御生誕一千二百年を記念して、比叡山名宝展を岡山市天満屋デパートで開催した。

十一月八日 日本古典芸能の殿堂として去る十一月一日開場した国立劇場の記念公演の一つとして天台声明が披露された。演奏されたのは

天台声明魚山秘曲「三十二相」で、雅樂の散吟打球樂と合奏されると云う声明の中でも異色の作品である。当日は舞台に、根本中堂の法灯の分火が奉持され、導師には中山玄雄大僧正が当り、又片岡義道僧正が指揮をとり、天台宗及び天台真盛宗の両音律研究所員二十三人の合唱と十二人が奏でる宮中雅樂会によって、午後六時半から約一時間にわたって演奏された。

十一月十日 去る五月廿四日不慮の災火によって焼失した恵心堂の再建工事は着々と進められて来たが、十一月一日ようやく全工程を終り、この日午前十一時からその落成式が、天台座主猊下の御導師の下盛大に営なまれた。今度再建された恵心堂は、山麓生源寺の横にあった別当大師堂を移築したものである。

十一月十六日 比叡山横川千光房靈蹟は道元禪師得度の靈跡であるが、曹洞宗ではかねてからその顕彰碑を改修していたが、今度完工したので、この日午後一時から、その顕彰碑の除幕式が、永平寺、総持寺両

本山代表、全国各教区宗務役員、遺跡顕彰会、来賓として延暦寺執行を始め各宗関係者多数参列の中、中村貞元宗務総長が御導師となつて厳そかに営まれ、信徒二千五百余名の焼香の列が連り、辺り一面は法縁の薫香に包まれた。

十一月廿一日 延暦寺書院に於いて、日光山、東叡山、比叡山の三山の懇親会が行われ、座主猊下を始め、菅原日光輪王寺門主他四人、大照東叡山輪王寺門主他三人、杉谷宗務総長、京都五箇室からは、水谷三千院門主、三崎妙法院門主、山中毘沙門堂門主、山田滋賀院門主が参会され、延暦寺叡南執行、各副執行も出席して懇親の実をあげた。

十一月廿五日 韓国曹溪宗中央宗議会議長兼韓国社会福祉総裁釈青潭師、国際部長李広基師、京城大学教授李義喆師等八名は去十一月廿二日に、今東光師の招待により、日本仏教界と韓国仏教会との平和交流を目的として東京上野寛永寺を始め都内の大寺を訪れ、廿四日には京都青蓮院で一泊、この日比叡山延暦寺を訪れ、杉谷宗務総長、叡南延暦寺執行の出迎を受け、根本中堂御宝前にぬかずいた後、書院に於い

て昼食を共にし歓談した。因みに、韓国僧一行は火食を一切口にしないと云うので、接待役の延暦寺側では食事の準備に大わらわであった。十一月廿七日 天台宗、聖観音宗、和宗の三者代表が比叡山麓滋賀院に於いて会合し、今後法儀、教学の興隆に於いて相互の一層協力発展方を話し合った。当日の出席者は、浅草寺網野執事長他各部長、四天王寺出口管長、塚原執事長他各執事、宗務総長他本庁各部長、小林録事、延暦寺叡南執行他各部長であった。

十二月四日 東海教区妙乗院(大僧都寺西内慈任職)に於いて、宗祖大師御生誕千二百年慶讃並びに妙乗院庫裡新築落成慶讃法要を、天台座主殿下を拜請して、石黒教区宗務所長初め安藤宗議会議員、長教区布教師会長等教区内役職員、該寺法類等参拾口の出仕で奉修した。法要に引き続き参拜者に剃度が行われた。

今年度より昭和四十六年春迄の間に延暦寺へ参詣する本宗団参は、遠忌団参として取扱われ、各団参毎に遠忌慶賛報恩法要が奉修されるこ

とになった。

猶今年度から四十五年度迄毎年三月と十月の間比叡山根本中堂に於いて駐在布教が行われ、又各教区に於いても、あらゆる機会に布教が実施され、且、各教区へ映画伝導員が派遣されP・R・につとめる事になった。

又昭和四十六年迄に大遠忌記念出版として、一、伝教大師研究号、二、天台座主記第三編、三、新布教資料が各々刊行されることになった。

昭和四十二年<sub>丁</sub>十一月十八日 南太平洋戦歿者慰霊協会では、日米両国の相互協力の下に、戦後民間として始めての遺族を含めた一行百十七名が、最も激烈を極めた玉砕の島マリアナ群島のグアム、サイパン、テナアン諸島に渡航し、夫々戦歿者の遺骨収集を行い、各戦跡地を巡拝して、この日グアム島マタギ山激戦地に慰霊塔建設の起工式を行った。本宗からは、浜名徳有、山本忍友の両派遣僧がこの一行に参加した。自二月廿六日 一ヶ月前 中尊寺秘宝展が、京都岡崎美術館に於いて、京都新聞社の後援で開催され、初日の開館法要には延暦寺執行も出仕した。

三月廿七日 第二十三回宗議會に於いて、左記の件が本年度に実施される事に決つた。

記

一、天台宗の宗章を配した宗旗を調製して全国三千ヶ寺院に頒布すること。

一、布教師、伝道師に伝道バッヂを交付すること。

一、檀信徒へもれ無く祈禱した御札を授与すること。

一、合掌礼拝運動を展開すること。

一、根本中堂の不滅の法灯をかたどつた法灯器を一万五千個調製して檀信徒総代に配布すること。

一、「一隅を照らす運動推進事務局」をつくり、宗内は勿論全国的な国民運動として展開すること。

三月廿八日 比叡山浄土院の拜殿の改修工事が本格的に実施される事になり、その起工式が午前十一時から、天台座主猊下御導師の下、式衆出仕して、宗會議員全員、水谷三千院門跡、大照上野輪王寺門跡、

近畿、東海等近県各教区長等が随喜する中、嚴肅に執行された。

四月一日 宗祖大師の大遠忌を記念して昨年宗務庁に社会課が新設されたが、更に今年度から社会部に昇格された。去る第十九回宗議会に於いて、宗団の前向きの姿勢として強力に社会福祉、共済互助の実を揚げる事を目的として、宗内共済互助規定が議決され、この日から実施の第一歩を踏み出す事と成った。その大要は、任職はもとより教師が死亡した際、各々規則に依って弔慰金を給付する事になっており、教師の配遇者即ち寺族は、任意加入制で一人について抛出金一千円を毎年納付する事によって弔慰金が給付されるのである。

四月自十四日至十一日 本年度御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内僧參勤して、七仏薬師法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十一日 再度に亘って合議検討され続けて来た、天台宗（延暦寺）、和宗（四天王寺）、聖観音宗（浅草寺）による三宗派連合提携の件は、三宗派代表委員会に於いて最終的に「縁故宗派連合会規約」と云う具体的成

案と成り、この日延暦寺書院に於いて三宗派管長（聖観音宗のみ代理）並びに各関係者が集まり規約に調印して、新しく三宗派連合が発足する運びとなった。

四月十三日 岐阜県安八郡神戸町日吉神社に於いて千百五十年祭が行われ、延暦寺から叡南執行が参向して、五色の御幣を社殿に奉幣し、続いて境内の舍利塔に法楽を捧げた。

四月末 四十二年度春の叙勲授賞者は、塩入亮忠大僧正、延暦寺法灯護持会員平山孝、阿部孝次郎、市川忍、谷口久次郎の各氏であった。猶同会員橋本利一氏はアカデミー賞を受賞した。

五月五日 東海教区神宮寺に於いて、本堂落慶々讚法要並びに宗祖大師千百五十年御遠忌法要が、午前十時から、天台座主猊下御親修の下、脇導師に水谷京都三千院門跡を迎え、森下住職を始め教区住職等約三十口の出仕によって盛大に厳修された。

五月十三日 岡山教区第五部国分寺（住職田中孝円）で本尊（薬師如来）開扉法要と宗祖大師遠忌法要の法華三昧が座主猊下御親修によって厳かに

修され、午後は同じく狹下御導師の下、戦病没者並檀中先祖回向法要  
が盛大に行われた。

五月自廿二日  
至廿三日 別請広学堅義は山上大講堂に於いて午後二時から廿三  
日午前七時迄の間厳修された。

業 元品能治 副 法華教主

探 題 恵日院 大僧正 菅 原 栄 海

堅 者 恵心院 大僧正 山 田 恵 諦

一の問 南光坊 大僧正 塩 入 亮 忠

二の問 延命院 大僧正 獅子王 円 信

三の問 止観院 大僧正 叡 南 祖 賢

五月廿三日 已講南光坊大僧正塩入亮忠は探題に補任された。擬講恵  
心院大僧正山田恵諦は已講に補任された。

五月廿四日 去る五月廿一日他界した延暦寺仲座職今井常玄の延暦寺  
葬は、生源寺に於いて山田滋賀院門跡大導師の下執行された。

五月卅一日 比叡山上浄土院拜殿の修理が去る四十一年末から施行さ

れ、この日完了した。今迄こけら葺であったのを銅板葺に改修した。

六月一日 今般宗規の制定、改正に当り、勸学、講司、准講司、嗣講、准嗣講の五学階を授与する学階規定が制定公布された。

六月三日 第二回伝教大師連盟懇親会が延暦寺書院で午前十一時過ぎから開かれ、十五ヶ寺の出席をみた。出席者数は、聖護院一名、粉河寺一名、四天王寺三名、鞍馬寺二名、念法真教二名、円満院一名、西教寺一名、養源院一名、園城寺一名、孝道教団三名、金峯山寺二名、本滝寺一名、実相院一名、天台宗延暦寺十名であった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主貌下御証義の下殿修された。

六月廿三日 望擬講大僧正叡南祖賢は擬講に補任された。

七月十三日 岡山教区大円寺住職大僧正清田寂坦は遷化した。同師は宗務総長、宗機顧問等の宗務公職を歴任した。

七月自廿三日  
至廿五日 比叡山上大講堂に於いて、第四回仏教文化講座が開催

された。出席の講師は、今東光、竹村吉右衛門、水谷教章、佐治敬三、岡野貴美子、古市義秀の各師であった。

七月自廿七日  
至廿八日 天台宗保育連盟の第二回園児登山参拝として、園児、父兄等約百名が比叡山に登山参拝した。

八月自八日  
至十日三日間 比叡山西塔居士林に於いて天台宗第一回学校教職員研修会が開催された。この会の目的とする所は、宗規によって社会部が発足したのを機に青少年教化と社会浄化を二大柱として、各種事業が計画されている中、最も焦眉の問題は学校奉職者の青少年に対処する心構であるとする事であり、今回は取敢えず、教区代表でなく地区的比例代表の形で十五人を選抜して開催された。

八月十日 比叡山上浄土院に於いて集団得度式が、座主猊下大戒師の下厳修された。新発意三十四名は、式の最後に、猊下から諭示を、杉谷総長、叡南執行から訓示を受け、感激を新たにして下山した。

八月自十四日  
至十八日 第二回滋賀県下小、中学生慶讃書展が開催された。

八月自十七日  
至十八日 宗祖大師御生誕遠忌法要事務局では昨年と同様、宗内寺

院檀信徒第二回青少年參拜登山研修会を開催した。參拜の各教区代表者は四百二十八名（内女生徒一三七名）、付添者は七十八名であった。

八月十八日 この程宗祖大師御生誕寺である生源寺に於いて、地元坂本の人々の協力によって新しい梵鐘が造られ、大師御生誕法要の一環として開眼撞初法要が座主猊下御導師の下に行われた。従来は、由緒ある鐘があったが、近年われ鐘となり、その用を為さなくなっていたので、御生誕千二百年を記念して延暦寺が發起し、坂本の人々の梵鐘として、又伝教大師の「照于一隅」の明るい社会を築くための自覚と警鐘に役立てようとして造られたものである。因みに、鐘の重さは四六五匁、肩高は九六糎である。

#### 梵鐘銘

比叡山生源寺

經に曰く

一打鐘声

当願衆生

脱三界苦

得証菩提

開眼供養

昭和四十二年八月十八日

伝教大師発願文

願くは、必ず今

生無作無縁の四

弘誓願に引導せ

られて、周く法

界を旋り、遍く

六道に入り、仏

国土を浄め、衆

生を成就し、未

来際を尽して恒

に仏事を作さん

南無根本伝教大師福聚金剛

咒文に日く

我等一滴の水を

奉持し

新鑄の微妙音に

加へ奉る

過去四恩仏道を

成じ

現在の願主災難

を除かん

第二百五十一世

天台座主大僧正

伝教大師御生誕

千二百年の佳辰

を卜して、青少

年の教化善導と

宗祖大師の

御報恩に資せん

がため、坂本在

住市民の協力に

より再鑄す。

八月十九日 三笠宮殿下が午前九時三十分延暦寺書院に御到着、小憩後叡南執行の案内で根本中堂へ御参拝、その後居士林へ向われた。折から滋賀県で開催中の全国レクリエーション大会の分科会が比叡山の居士林で開かれていたので、殿下はそれに御出席された。

八月<sup>自廿一日</sup>至<sup>廿五日</sup> 京都市真正極楽寺貫主権大僧正森観濤は戸津説法を勤仕した。

42  
年

八月卅日 勸学院出仕者大僧正山口光円は勸学院々長に、勸学院出仕者大僧正山田惠諦は勸学院副院長に、勸学院出仕者権大僧正関口慈光は宗義研究所長に、勸学権大僧正平了照は教学研究部主任に、勸学権大僧正勝野隆信は布教研究部主任に、勸学大僧正中山玄雄は法儀音律研究部主任に、講司権大僧正多田厚隆は教学研究部指導員に、僧正誉田玄昭は法儀音律研究部指導員に、教務課長大橋良仁は宗義研究所主事に夫々任命された。

九月<sup>自二</sup>至<sup>四</sup>日 比叡山西塔居士林に於いて、社会福祉指導員研修会が開催された。

九月廿一日 比叡山では、「比叡山特別参拝会員」なるものを募集し、取敢えず、この日の阿弥陀堂に於ける彼岸会法要参拝と、十月四日の法華大会五巻日(中旦)法会参拝の二回、特別参拝の会を実施する事になった。この会は、一年を通じて八回に亘って行われ、会員は延暦寺の伝統ある古儀法要等に参拝し、書院に於いて法話を聴聞し、叡山流の精進料理を味う事になっている。

九月廿三日 滋賀会館に於いて、午後一時から、明治百年滋賀県知名士合同慰霊祭（法華三昧之伎）が、座主猊下御導師の下十二口出仕で執り行われた。

九月廿五日 この程天台宗教学部から、檀信徒必携の信仰の手引書「檀信徒手帳」が発行された。是は山口光円、荒樋栄実両勸学の監修の下に刊行されたもので、本宗檀信徒の信仰の再確認と寺檀関係の一層の親密化に役立て様とするものである。

九月自廿九日至卅日 比叡山上戒壇院に於いて、大乘円頓授戒会が行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 金台院大僧正赤松円瑞

教授師 妙行院大僧正梅山円了

十月自一日至六日 法華大会広学暨義が総本山延暦寺大講堂に於いて厳修された。

臨監 勅使 元堂上華族野西資忠

1967

探題 延暦寺 大僧正 周湛

探題 恵光院 大僧正 覚誠

探題 日光輪王寺門跡 大僧正 栄海

探題 南光坊 大僧正 亮忠

已講 滋賀院門跡 大僧正 恵諦

擬講 止観院 大僧正 祖賢

会行事 真蔵院 大僧都 宏映

十月四日 法華大会中日の盛儀には、来日中のチベットのダライ・ラマ師一行、西塔にて学術大会開催中の日本仏教学会の一行及び各宗管長等が参列した。

十月十日 陸奥教区気仙沼市観音寺に於いては、講堂、金堂、開山堂及び荘厳具等一切の新調工事が完了したので、その落慶大法要が午前十時から天台座主猊下御親修の下、盛大に厳修された。随行は杉谷宗務総長、森定教学部長、大橋教学課長、延暦寺居士林葉上所長等であった。

十月自十四日至十六日 第四回中央寺庭婦人研修会が延暦寺で開かれ、開会式に座主猥下が御臨場、御言葉があった。又寺庭婦人の中得度希望者二十四名に受戒式が行われた。

十月十八日 比叡山北端、静寂の地、横川戒心谷を森林墓地「比叡山靈苑」と名づけて敷地造成が始められることになり、この日座主猥下御導師の下、一山僧出仕して歛入式（受地作法之儀）が執行された。

十月廿七日、廿八日 東京都内、大正大学を会場として教学大会が開催された。

十一月自二日至四日三日間 第六回中央布教々化研修会が祖山延暦寺会館に於いて開会された。開会式に当り座主猥下から「来る昭和四十六年に迎える宗祖大師一一五〇年の大遠忌に当りては、尚一層布教の振興を計って祖恩に酬い奉ることは布教師の本務である。」との御言葉を賜り、感激を新たにし終始熱心に研修をした。

十一月六日 日展顧問並日本芸術院会員豊道慶中（春海）大僧正は、書道の振興隆盛に尽力した功を認められ、この日東京虎の門の国立教育会館に於いて、他の受賞者と俱に文化功労章を受賞した。

十二月自五日至六日

沖繩の太平洋戦争戦没英霊追悼法要執行並びに遺跡巡拜の一団に、天台宗特使として山形教区清原浄田、守谷俊雄の両師が、山形県知事を始め県遺族会、県仏教会、関係者等と共に参加した。

十二月七日 上野輪王寺門跡大僧正大照晃道は午後七時四十分遷化した。

十二月十九日 東京教区円珠院住職権大僧正杉谷義周は宗務総長に任命された。

十二月廿五日 比叡山延暦寺では、一千年来の文化財を保護する目的で、比叡山上横川旧恵心堂の地に収蔵庫を建設中であつたが、この程完成し、この日その完工式が天台座主猊下御導師の下に屋鎮法をもつて行われ、来賓として、野崎滋賀県知事、西田大津市長を始め、文化財関係者、設計監督の任に當つた建築研究協会代表、施工の大成建設株式会社代表等多数の参列者があつた。この収蔵庫は「比叡山秘宝館」と命名され、来年四月に開館し一般に公開される予定である。この収

蔵庫の建物に関する概要は左記の通りである。

比叡山秘宝館建設概要

一、設計監督 財団法人建築研究協会

一、施工 大成建設株式会社

一、工費 金四千三百三拾万円

一、起工 昭和四十一年十月九日

一、竣工 昭和四十二年十月廿五日

一、規模 イ、鉄筋コンクリート切妻造り平屋建、床下一・二メートル

ルの通風式、建物全体は朱染、屋根銅板葺

ロ、建坪収蔵庫四三二・四七平方米

陳列室 九六・〇〇平方米

計五二八・四七平方米(約一六〇坪)

昭和四十三年<sup>戊申</sup>一月廿六日 天台宗宗議研究所編の、天台宗「教師必携」

が、宗務庁教学部から発刊された。

二月十六日 上野寛永寺一山大僧正杉谷義周は上野輪王寺門跡に任命された。

二月廿五日 延暦寺一山護心院住職尾崎大顯は浄土院侍真として十二年籠山行に入った。

四月自十四日至十一日 本年度御修法は総本山根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、普賢延命法を奉修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月八日 比叡山麓生源寺で花祭が盛大に行われた。

四月十七日 孝道教団から杉、檜の苗木一万二千本が延暦寺に贈られ、玉体杉附近で盛大に植樹祭が執り行われた。岡野兩統理他若統理夫妻や多数の孝道教団特別功德者が植樹して、附近約四町歩は孝道山林と命名された。

四月十九日 比叡山西塔の重要文化財にない堂（法華堂、常行堂）は、去る昭和三十九年四月から滋賀県文化財保護課の監督の下に解体修理を

進められて来たが、この程内外共に工事が終り、この日午後一時から、天台座主猊下の御導師の下一山僧出仕して、県、市を始め関係者多数が参列する中、落慶法要が盛大に執り行われた。

五月自三日  
至五日三日間　兵庫教区書写山田教寺に於いて、大修理落慶大法要が盛大に行われた。三日（第一日）は開山性空上人の九百五十回御祥忌に当り、座主猊下の御親教を仰ぎ、教区内寺院住職出仕の許に胎藏界曼荼羅供の秘法嚴儀が開山堂に於いて執行された。四日（第二日）は大講堂に於いて午前中重文諸堂の昭和大修理の落慶竣工式が挙行され、文部省始め県市関係官庁の代表者や総本山代表宗務総長（代理武教学部長）の祝辞等の外、表彰、感謝状の授与等が行われた。又午後から円教寺長吏大僧正大樹承算大導師の下に大般若転読が奉修された。五日（第三日）は当山開山一千年を記念して法華三昧の嚴儀が滋賀院門跡山田恵諦大僧正調声の許に嚴修された。三日間に亘り全山瑞氣に満ち大いに賑わい、参詣の善男善女は法縁に浴した。この間食堂では餅まき、常

行堂では壬生狂言が余興として催された。

五月五日 比叡山特別参拝会員の登山があり、釈迦堂の灌仏会に参拝した後、居士林で坐禅等を修行した。

五月廿二日 福聚教会本部長会議が延暦寺会館に於いて開かれた。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主猥下御証義の下厳修された。

自六月十一日  
至七月四日 日本仏教文化協会(会長水谷三千院門跡)では、今回西欧諸国宗教事情視察を実施したが、この視察旅行には、宗内からは団長水谷門主、顧問葉上照澄大行満及び小松寂光院々主が参加した。

六月<sup>自</sup>至<sup>廿</sup>廿四日 大遠忌記念行事の一つとして第一回天台宗青年僧記念安居会が比叡山に於いて開かれた。この安居会は、宗内の満四十才以下の寺院住職、僧都以下の壮年住職を六日間祖山に籠山させ、四種三昧を専修させて、天台宗僧侶としての自覚と信念を確かめさせ様とする目的で行われたものである。

六月廿九日 京都教区方広寺住職大僧正木下寂元は宗務総長に任命された。

七月自廿七  
至廿九日

第五回比叡山延暦寺仏教文化講座が開催された。講師は、岸信宏、山岡莊八、加藤日義、藪内紹賀、中西悟堂、藤田蔵の各師であった。

八月五日 京都真正極楽寺貫主大僧正森観濤は叡山学院々長に任命された。

八月自十四  
至十八日

第三回滋賀県小、中学生奉讃献書展覧会が開催された。

八月自十八  
至廿日

第三回天台宗青少年登山参拜が行われ、全国から約五百名の青少年の祖山参拜をみて、全日程を盛大のうちに終了した。

八月自廿一  
至廿五日

延暦寺一山金台院住職大僧正赤松円瑞は戸津説法を勤仕した。

八月廿二日 比叡山浄土院に於いて、第二回集団得度式が座主猊下大戒師の下執行された。今年は新発意三十名であった。

八月廿五日 比叡山麓滋賀院に於いて午前十一時から探題集會が開かれ、天台座主猊下、日光輪王寺門跡菅原大僧正、喜多院住職塩入亮忠大僧正の三探題が集合した。

八月自廿七日  
至廿九日 天台宗保育連盟の第三回園児登山參拜が行われ、約百名の園児が父兄等と參加した。

八月廿八日 京都方広寺住職大僧正木下寂元は再び宗務総長に任命された。

九月一日 三千院門跡大僧正水谷教章は望擬講に補任された。

九月自一日  
至八日 比叡山と日光山と毎年交代で会場を受持つて行われる。

大正大学実践仏教が、今年は比叡山西塔居士林で開かれた。吉田、樋口両師引卒の下、受講生六十八名（うち女子三名）が參加した。

自九月廿日  
至十一月十日 滋賀県と大津市では、県農協中央会、県商工會議所連合会と共催で、この日から五十二日間に亘って、湖と文化の祭、琵琶湖大博覽會を開催したが、テーマ館である「びわこ館」に於いて比叡山仏教が紹介された。

十月八日 日光山関口慈光師徒弟ドイツ人ローベルト・クラウン・ハイネマン氏(東大印哲科)は、この程延暦寺で灌頂を履修し、滋賀院で座主猥下に面会、今後の活躍を誓った。

十月十一日 浄土院御霊屋の修理起工式が天台座主猥下の御導師で、事務局の局員(宗務総長以下各部長、延暦寺執行以下各副執行)が出仕して厳かに行われた。これより先この御霊屋に安置してあった宗祖大師御尊像(高さ約三十センチ)は、浄土院尾崎侍真によって、拜殿に仮安置された。

十月十三日 兵庫教区神戸市垂水区伊川谷町太山寺に於いて、午前中宗祖大師一千百五十年大遠忌報恩法要(法華三昧之偈)、午後剃度、円頓授戒会が、天台座主猥下御親修の下執行された。戒弟三百名であった。猶、座主猥下には、武教学部長、井深遠忌局事務副長が随行した。

十月<sup>自十四日</sup><sub>至十九日</sub> 第二回天台青年僧安居会は、宗内、全国各教区から年令三十九才迄の僧都以下の住職を集めて、比叡山西塔に於いて居士林を宿舍として実行された。この安居会は御遠忌の記念事業中異彩ある

企画として、この期間行われ、又第二期は廿七日から十一月一日迄の期間実修が予定されている。この安居会に集った五十余名は、好相行を始め法華三昧、常行三昧、坐禅止観等を熱心不退に修行した。

十月自十九日至廿一日 第五回中央寺庭婦人研修会が延暦寺会館に於いて開かれ、六十八名が参加し、意欲的に研修に励んだ。

十月廿三日 時宗から一遍上人の御尊像が比叡山上大講堂に奉納され、その奉安式が時宗法主遊行七十一世大僧正他阿隆宝上人、大導師の下厳修され、約四百五十名の善男善女が参拝し仏縁を結んだ。

十月自廿六日至廿七日 天台宗教学大会が大阪四天王寺に於いて開催された。

十一月二日 東京大正大学では、三階建の新校舎が三億千三百万円の費用を以って新築され、その落慶式が盛大に執行された。

十一月五日 布教師会長会が、滋賀院で開かれた。

十一月八日 比叡山居士林に於ける昭和四十三年度研修受講の集計は、研修生二、三〇五人、受講生一、五〇六名、計三、八一一名にのぼった。

十一月十二日 第七回中央布教研修会が延暦寺会館で行われた。

十一月十四日 関西修学旅行中の浩宮徳仁親王（学習院初等科三年）は、

午前十一時半頃、琵琶湖大橋から奥比叡ドライブウエーを経て、根本中堂へ御参拝された。根本中堂では、宗務総長や延暦寺執行等が御出迎えし、叡南執行が御案内説明申し上げた。又参道では比叡山幼稚園児が日の丸の小旗で御歓迎した。同親王御一行は、この後四明嶽から大津側へ御下山された。

十一月自十五日至十六日 東京国立劇場に於いて、天台声明公演が三回に分けて行われた。公演種目は「声明懺法」であった。

十一月自十八日至十九日 大遠忌事務局事業計画の一つとして天台宗檀信徒総代祖山参拝が実施される事になり、その第一回として、岡山、山陰、

四国、九州東、九州西の五教区から代表百二十四名が祖山に結集した。是の研修会は、宗門発展興隆の原動力となる各寺院の檀信徒総代の代表を祖山に招待し、遠忌法要の意義の徹底とそれに対する自覚の培養に資し、併せて檀信徒会の結成を促進すると共に、大師御精神「一隅

を照す」精神運動の大展開を期する目的で開催された。この日参集の代表は、大遠忌大事業の完遂に向つて僧俗一貫して邁進する事を決議した。

本年末、座主猥下から、来る御遠忌に備えて七条袈裟二十領を新調するようにと、金三百万円が延暦寺事務所へ寄附された。

昭和四十四年酉己二月十九日 止観院大僧正叡南祖賢は延暦寺執行に再び任命された。

三月廿三日 兵庫第五部法雲寺（任職吉川広昭師）では、昨年高松宮御幸臨と宗祖大師御遠忌を記念して、本堂、庫裡、墓地等の大修理を行い、この程落成したので、その落慶大法要と授戒会が、天台座主代理滋賀院山田門主大導師の下、厳肅盛大に行われた。

三月自廿九日  
至卅日 兵庫教区八葉寺（任職岡恵照）に於いて、廿九日午前十一時から在家得度式が、午後結縁灌頂が夫々座主猥下御親修の下滋賀院山田門主等出仕して行われた。卅日は、本堂落慶並びに本尊十一面

観音開眼法要が、天台座主猊下御親修の下盛大に厳修された。

四月一日 延暦寺学問所の本拠が比叡山西塔釈迦堂政所に置かれ、菩薩僧の育成の中心機関として一層強化拡充される事になり、その開所式が座主猊下御臨席の下行われた。これは、宗祖の精神を時代に適應させた一つの試みとして先頃新しく定められた三年籠山の学生養成の制式によって、今回五人の本山交衆が籠山行に入ったためである。

四月自十四至十一日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、鎮将夜叉法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月六日 延暦寺では今回近畿テレビを通じて、京都、滋賀、大阪の三府県を対象に、テレビ放送を開始することになった。放送タイトルは「比叡の光」である。

四月自廿至廿四日 恒例の叡山講法要は、比叡山上大講堂、阿弥陀堂を中心、天台座主猊下を始め延暦寺一山、地方代表の総出仕の下、厳肅

に繰りひろげられた。

四月廿五日 第一回の「一隅を照らす運動」促進委員会が、比叡山麓滋賀院に於いて午前十時から開かれ、会長には宗務総長が任命された。四月廿七日 山陰の瑞光山清水寺（任職清水谷善晃）に於いて、教区主催の宗祖大師一一五〇年の大遠忌法要と円頓授戒会が、天台座主猥下大導師の下、教区全寺院住職等出仕して厳修された。

五月自六日至七日 第二回檀信徒総代登山が行われ、近畿、中部六教区の総代表二百二十五名が参集し、全員が剃度、研修、会議、三塔巡拜等の貴重な体験を経て、大遠忌法要の円成と新しい教団の育成に邁進し、仏弟子として一隅を照らす国宝的人材の育成に自ら率先する事を誓った。

五月十八日 比叡山法灯護持会第九回総会が、午前十一時から延暦寺書院で開かれ、座主猥下が御臨席され御挨拶があり、佐々部副会長が石坂会長に代って議長となり会議が進められた。

五月自廿六日至廿七日 第三回檀信徒総代登山結集が行われ、東海、信越、神

奈川、東京の四教区総代表百八十五名が参集し、前回と同様天台座主猊下から親しくおかみそりを頂戴して仏弟子と成ると同時に、宗祖伝教大師千五十年大遠忌を目標に一隅を照らす国宝的人材育成に率先する事を根本大師御宝前に誓うと共に、一致団結新しい教団造りに邁進する事を決意した。

六月三日 比叡山上浄土院祖廟御靈屋の修理完成を宗祖大師へ報告すると共に、拜殿に仮安置してあった御靈屋の御本尊を遷座安置する法要が、午前十時から朱色も鮮かな御靈屋前で、延暦寺叡南執行の導師の下大遠忌事務局員総出仕して、厳肅に修された。因みに、今回の修理は、昨年の拜殿、阿弥陀堂の修理に続く工事であったが、是で浄土院の修理はすべて完了したことになる。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主猊下御証義の下殿修された。

六月自四日 第三回天台宗青年僧記念安居会が祖山西塔に於いて行われ、至九日 第六回天台宗青年僧記念安居会が祖山西塔に於いて行われ、

六月自十五日 引き続き第四回天台宗青年僧記念安居会が比叡山に於いて行われた。

六月十二日 大僧正の僧階はこれ迄は宗務庁から伝達されていたが、今回これが改められ、本山で座主猊下から親しく授けられる事になり、その最初として川崎市龍巖寺住職粕賀広道（六十五）に座主猊下から大僧正位が授けられた。

六月十六日 延暦寺一山会議に於いて、大遠忌記念事業の一つとして廿七年ぶりに横川中堂を再建する事に決定した。昭和四十六年春完成を目標に、早速再建に着手する事になった。猶、延暦寺では、東塔の大乗戒壇院、西塔の瑠璃堂、相輪棟の三堂塔の修理工事をも七月から行う事になった。

六月廿日 天台宗臨時宗議会が、延暦寺会館に於いて午前十時から開かれた。

六月廿一日 臨時宗務所長会議と照干一隅運動理事会が、延暦寺会館に於いて午前九時から開かれた。

同日 比叡山上浄土院に於いて午後一時から御靈屋落慶法要が、天台座主猊下御導師の下一山住職が式衆となつて厳かに行われ、山中毘沙門堂門跡、山田滋賀院門跡、今東光中尊寺貫主、宗議會議員、宗務所長全員が参列した。法要に続き、羽場宗議會議長が表白文を捧げ、若水宗務所長代表が「伝教大師の御精神を生かすよう努力する」と御宝前に誓いの言葉を述べた。

同日 宗祖伝教大師一一五〇年大遠忌法要に際し、この千載一遇の勝縁を契機として、天台宗では、宗祖伝教大師の「一隅を照らすこれ即ち国宝なり」の御精神を宣揚するため、寺檀一致宗団挙げて「一隅を照らす」運動を展開することになり、新たに今東光大僧正が会長に任命された。

六月廿三日 延暦寺一山円乗院住職権大僧正渡辺恵進は比叡山行院々長に任命された。

七月<sup>自六</sup><sub>至七</sub>日 天台宗各種研修会を統合した「天台宗研修会」の第一回が、延暦寺会館で開催され、全国各教区から選抜された布教師、伝道師、

寺庭婦人、ボーイ・スカウト、一隅運動推進員、社会福祉指導員等多数が参加し研修して盛況裡に終った。

七月<sup>自</sup>至<sup>自</sup>廿八日 天台宗B・S研修会が本山に於いて行われた。

七月廿四日 延暦寺一山真乘院住職僧正菅田玄昭は比叡山高校々長に任命された。

七月<sup>自</sup>至<sup>自</sup>廿六日 比叡山上大講堂に於いて、第六回仏教文化講座が開催

された。出席の講師は、都筑玄妙、谷川徹三、渋谷有教、土川元夫、原随園、竹田益州の各師であった。

八月<sup>自</sup>至<sup>自</sup>十八日 天台宗学校教職員研修会が本山に於いて行われた。九日には、比叡山上釈迦堂に於いて、天台宗学校教職員連盟（台教連）の結成総会が、宗務総長、延暦寺執行の臨席の下行われた。

八月<sup>自</sup>至<sup>自</sup>十八日 第四回滋賀県小、中学生大師奉讃献書展覧会が開催された。

八月<sup>自</sup>至<sup>自</sup>十八日 第四回青少年祖山参拝研修会が延暦寺会館で行われ、全国各地から四百四十六名の少年少女が参集して、三塔を舞台に、坐

禪、勤行、比叡山の歴史、自然、伝教大師の教の勉強等、一心に研修に励んだ。

八月<sup>廿五日</sup> 上野輪王寺門跡大僧正杉谷義周は戸津説法を勤仕した。

八月<sup>廿二日</sup> 本年度本山集団得度会が、比叡山上浄土院に於いて、座主猊下御戒師の下執行された。

九月一日 来る昭和四十六年に、宗祖伝教大師御入滅一千百五十年の御遠忌を迎えるに当って、座主猊下は特に親諭を発せられ宗徒並びに檀信徒の趣く可き方針を示された。

### 親 諭

昭和四十六年宗祖伝教大師御入滅一千百五十年の聖諱を迎うるに当り哀情を披瀝して宗徒並びに檀信徒各位に告ぐ。

宗祖伝教大師が立教開宗せられた真意は、五濁の悪世に昏迷する一切の人々に、真実の仏光を輝かして、之を救済せんがため、仏性の開発と浄仏国土の建設にその本願を托されたのである。

而もこの二つは別々のものではなく、ただ一に道心ある人を育成し

充実させることにあるのである。

宗祖大師曰く、国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり、道心ある人を名づけて国の宝となすと、道心は菩提を求めたる心であり、忘己利他の精神である。この故に末世のわれらに遺された法華一乗の教法によつて、広く衆生を導き給うたのであり比叡山がいつの世にも仏教隆昌の根源となる所以である。

然しながら翻つて現状を見るに、社会の人心は自らの欲望を満たすに急にして、慈悲を施すの心浅く、秩序を軽視し、生命を尊重しない傾向が次第にその度を増し、偏狭の宗教跋扈して、人心やすらぎを求むるに遑なき様相を見ることは遺憾の極みである。この時に当り、宗祖大師の聖諱に遭遇することは、正しく宗を挙げて教法を興し、国家の福祉を成就せよとの靈告と仰いで肝銘対処しなければならぬ。今や世界は思想的に対立して利害を事とし、各所に惨事を見ながら、なお干戈の是非を論ずるのみで、和平並存の実を挙げ得ないことは我ら宗教家の恥辱にして將に奮起すべきの秋である。私

どもは須らく、宗祖大師の意を体して、宗是を仏教各宗派の和合と教化の高度実現に置き、寺檀一致、僧俗一体となつて国家の隆盛と人類の幸福に寄与しなければならぬ。

冀くば同信の各位、千載一遇の好機に際会するを喜び自ら道心ある人としての範を示すと共に全国民に忘己利他の大精神を鼓吹して一遇を照らす人物を国内に充満せしめ、以つて、宗祖大師の鴻恩に報いられんことを。

昭和四十四年九月一日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

九月<sup>自</sup>至<sup>三</sup>八<sup>日</sup> 孝道教団では伝教大師大遠忌慶讃の為、今年も岡野統理、同副統理引卒の下四千百六十人が修行参拜のため比叡山に登山し、祈念法要を毎日午前十時から座主猊下御導師の下殿修し、又殿しい修行をしたが、今度孝道山から横川中堂再建資金として一千万円の浄財が延暦寺に寄進され、大講堂で座主猊下から岡野統理に感謝の念をこめて受納証が親授された。

九月八日 比叡山横川中堂の再建は、主務官庁である文化庁との打合せ、折衝もほぼ終り、近く本工事にかかるが、之に先だって中堂跡の発掘調査が行われる事になり、この日叡南延暦寺執行導師の下、中堂跡に祀られてあつたブロンズの聖観音の遷座法要が営まれた後、直ちに発掘作業が福山敏男元京大教授、西田弘等の手によつて始められた。

九月自八日至十三日 第五回天台宗青年僧安居会が比叡山西塔「にない堂」で行われた。

九月十九日 根本中堂の「不滅の法灯」が群馬県高崎市薬王寺（千葉照源住職）へ分灯される法要が、比叡山上根本中堂に於いて午後六時から、叡南延暦寺執行の導師の下、宗務庁、延暦寺両当局役員、二十人の薬王寺総代が参列合掌する中、厳肅に執行された。

九月廿二日 比叡山高等学校校舍増築工事が完成し、午前九時からその竣工式が挙行された。

自九月廿五日  
至十月二日 本年度比叡山延暦寺伝法灌頂は、延暦寺灌室に於いて天

台座主猥下が教授阿闍梨となり厳肅に執行された。

九月廿八日「一隅を照らす運動」の理事会が延暦寺書院で開かれ、今東光会長を始め、岩井京都商工会議所会頭、竹村安田生命前社長、弘世日本生命社長、羽場宗会議長等三十七人が出席した。

十月七日 南紀那智山青岸渡寺に於いて、福聚教会叡山流奉詠舞大会が、総本部長叡南大僧正出席の下、盛大に行われた。

十月十日 山形市国分寺（柏山寺、住職富樫晃全）に於いて、宗祖大師大遠忌法要並びに円頓授戒会が、天台座主代理山田滋賀院門跡御導師の下行われた。戒弟約千百名であった。

十月自十七日  
至十八日 第四回檀信徒総代比叡山登山結集が行われ、東京、千葉、埼玉、栃木、群馬各県から代表が参集し、座主代理山田滋賀院門主の御導師で剃度を受け寺檀一致協力の旨を誓った。

十月廿日 目黒瀧泉寺を会場に、伝教大師大遠忌と、一隅を照らす運動を記念して、東京本部奉詠舞大会が盛大に行われた。

十月自廿二日  
至廿二日 第五回檀信徒総代比叡山登山結集が行われ、東北の総

代表が登叡し、前回の通り剃度等を受け大遠忌に向つて寺檀一致協力の決意を新たにした。これで全国の総代の登山が終り、宗祖大師千百五十年大遠忌法要完遂への熱意が全国津々浦々に至るまで盛上つた。十月<sup>自廿五</sup>至<sup>廿六</sup>日 第十一回天台宗教学大会が、東京浅草寺福祉会館で開かれた。今年は大正大学が中心となり、浅草寺の後援で開かれた。

十一月<sup>自二</sup>至<sup>四</sup>日 滋賀県湖東びわ村東雲寺（任職吉田戒善）では慰霊殿が建設されたので、宗祖大師大遠忌法要並びに慰霊殿落慶法要及び円頓授戒会が、座主猊下大導師の下盛大裡に行われた。座主猊下には叡南執行等が随行した。

十一月六日 比叡山横川中堂跡の発掘調査は九月以来続けられていたが、この日完了し、調査結果の報告を待つて愈々再建工事に着手される事に成つた。

十一月廿一日 東京上野寛永寺で開かれた一隅を照らす運動の常任理事会で、この運動の具体的な推進方法の一つとして、年賀状や日常使用のはがき、封筒、名刺等に運動の標語を記載し、より多くの人に呼

びかける事になった。

十一月廿四日 延暦寺一山恵光院住職探題大僧正叡南覚誠は遷化した。  
十二月十五日 比叡山横川中堂再建工事の第一歩を飾る埋経式が、午  
前十一時から寒風の吹きすさぶ同中堂跡に於いて、叡南延暦寺執行の  
導師の下横川中堂再建委員が式衆となり、厳肅裡に行われ、法灯護持  
会々員夫人等の浄書した写経観音経三十三巻が銅筒に収められ、つぼ  
の中に密封されて、基壇下地下深く埋められた。

#### 埋納経表白

闔山の大家等本山北塔横川中堂再建の宿願誠に久しく成就の懇望  
愈々深し。茲に発願祈誓を籠めて浄地の主郭を点定し妙典埋経の供  
養会を修し永劫の法宝を納めて以て鎮土堅牢ならんことを期し奉る。  
伏して願くは経遠く伝えて未来諸仏の所に至り今仏所説の会に異な  
ることなく、此の鎮経久しく住して諸仏法華の砌に現じ弥勒証明の  
三会に期する所なり。  
重て乞う写経奉埋の功德を以て周ねく十方に徧し六道四生等しく潤

いを蒙むり列座陪席の縑素、妙経奉写の懇志者等同じく菩提の覺路に到らんことを。

十二月廿九日「一隅を照らす運動」本部の一行事として、今東光会長を先頭に、木下宗務総長以下五十名が、銀座数寄屋橋で托鉢を行い、今会長の辻説法等があつて、民衆に「一隅を照らす運動」を大いに紹介した。

本年十月から大師奉讃講演会を開くことが提唱、奨励された。

昭和四十五年<sup>庚戌</sup>一月卅一日 一隅を照らす運動の実践の一つとして、東京に続く第二回の托鉢が午後一時から京都で行われ、今東光会長を先頭に、京都、滋賀の住職等五十人の僧が参加し、集まった浄財を京都社会福祉協会に寄付する等一隅を照らす運動の実をあげた。

二月十三日 九州宮崎県国富町法華岳薬師院に於いて、宗祖大師遺蹟顕彰碑が建立された。

自二月十四日 至三月十四日 明年春に宗祖大師一千百五十年大遠忌法要を厳修するに当り、その記念事業の一として「天台の秘宝展」が東京小田急百貨店

に於いて、天台宗、延暦寺主権、東京新聞社後援で盛大に開催され、内外に多大の感銘を与えた。

三月九日 第二十五回宗議会が滋賀院門跡で招集され、座主貌下の御臨席があつた。この宗議会で、伝教大師六所宝塔の一つ、慈覚大師出家の名刹である栃木県下都賀郡岩舟町の大慈寺（住職林慶真）が準別格寺に指定される事になつた。

三月卅日 延暦寺書院に於いて、午前十一時から、天台宗縁故宗派連合会が開かれ、宗務総長等も参集し、各宗派より提出の議題を協議した。

四月自十四日至十一日 本年度御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主貌下始め各門跡、地方選抜者、山内住職等が参勤して、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉つた。

四月自十八日至十九日 滋賀県石部町常楽寺（住職高橋良暢）に於いて、十八日は御本尊千手観世音菩薩御開扉法要、十九日は天台座主貌下御親修の慶讃法要が厳修された。参列者は、木下宗務総長、叡南延暦寺執行、妙

法院三崎門主、本山法類寺院住職、石部町仏教界各宗寺院住職、天台宗滋賀教区各部代表寺院住職等であつた。参詣人に対して、今東光講師が記念講演を行なつた。

四月廿九日 熊本県下益城郡富合村長寿寺（住職角本澄照）に於いて、伝教大師千百五十年大遠忌と同寺本堂改築四十五周年記念慶讃大法要が、天台座主代理滋賀院門跡山田恵諦大導師の下殿修された。随行は中山玄雄長老、武延曆寺副執行、井深遠忌事務局副長であつた。参詣人は県内外から約五千人あつた。

五月十八日 伝教大師千百五十年大遠忌を迎えて比叡山延曆寺では、全国有縁者の支援を得て三億二千万円の巨費で横川中堂の再建工事を進めているが、その工事現場に於いて午前十一時から、叡南延曆寺執行導師の下、横川中堂再建委員が出仕して上棟式が行われた。

五月廿四日 栃木県岩船町大慈寺で、慈覚大師顕彰文化講演会が同町教育委員会と仏教会の主催で開かれた。講師は福井康順博士であつた。又、準別格寺昇格奉告祝賀会が開かれ、多数参会し盛況であつた。

五月廿七日 延暦寺一山善学院住職大僧都中野英賢は、去る昭和三十三年以来一紀、伝教大師所定の十二年籠山中であったが、この日無事籠山を満行した。

自五月廿九日  
至六月九日 比叡山西塔に於いて、第六回、第七回天台宗青年僧安居会が、五泊六日でそれぞれ行われた。

五月卅日 大阪万国博覧会場内鉄鋼館大ホールに於いて午後七時から、同館特別催物「日本古典芸能と現代音楽の夕べ」の第三回公演として、天台声明が披露された。この公演は、円型舞台中央に浮び上った根本中堂の不滅の法灯を円形に囲む様に、袍裳七条をまとった中山玄雄導師他十四人の出仕僧が列立して、唄、散華、百石讚嘆の唱和を行なった。

五月卅一日 万国博内自治館に於いて、日光山輪王寺に伝わる「強飯式」や「延年の舞」が披露された。

六月三日 天台宗保育連盟の第四回園児登山参拝が行われ、約百五十名の園児が祖山に参集した。

猶、彫刻家錦戸親観氏が伝教大師大遠忌を讃えて、大師晩年の御姿を彫刻、出来上った御木像は、天台宗保育連盟を通じて比叡山根本中堂に奉納される事になり、その御木像が、この日全国から集った園児代表の手によって中堂内陣に奉安され、その開眼、除幕法要が、山田滋賀院門主御導師の下執行された。

同日 津山市小田中地藏院住職権僧正清田寂潤は、永年に亘る保護司活動の貢献により藍綬褒章を受賞した。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猥下御証義の下厳肅に執行された。

同日 天台宗「一遇を照らす運動」本部では、一遇を照らす行為を行なった左の二名に感謝状と表彰状を贈った。

感謝状 国鉄盛岡鉄道管理局一の関貨車区長 住吉久吉(五十三才)

表彰状 下館市 故大島清次郎(八十七才歿)

七月二日 去る六月十二日急逝した木下寂元天台宗宗務総長の本葬儀は、比叡山麓滋賀院門跡に於いて午後一時から、即真天台座主猥下御

導師の下、天台宗葬をもって、しめやかに営まれた。

七月自廿五日至廿七日 比叡山大講堂に於いて、第七回仏教文化講座が開催さ

れた。出席の講師は、梅原猛、堀沢祖門、金島桂華、奥田慈応、鵜飼隆玄、梶浦逸外の各師であった。

七月卅日 千葉照源天台宗社会部長は宗務総長に任命された。

八月自十四日至十八日 第五回滋賀県小、中学生大師奉讃献書展覧会が開催された。

八月十八日 宗祖大師の御両親の邸宅趾と伝えられる大津市坂本々町の紅染寺跡に、延暦寺では将来寺院を復興する計画で、この跡の整地に着手しこの程完成したので、この日午前十一時から現地に於いて、宗務総長、各部長、延暦寺執行、その他多数の参列者の中、滋賀院門跡山田大僧正導師の下延暦寺一山僧出仕して、御両親の追慕法要が厳粛に執行された。

八月自十八日至廿日 比叡山延暦寺に於いて、第五回天台宗青少年祖山参拝研修会が開かれた。

八月自至廿五日 善光寺大勸進副住職大僧正徳江亮宏は戸津説法を勤仕した。

八月廿二日 今年の本山得度が、比叡山浄土院に於いて、座主猊下の戒師で行われた。

八月自至廿七日 第十九回天台保育大会が、比叡山延暦寺で盛大裡に行われ、二百二十名が参集し研修した。

九月自至十七日 第八回天台宗青年僧安居会が祖山西塔に於いて行われた。

九月十二日 兵庫教区神池寺に於いて、本堂落慶本尊開扉法要が、天台座主代理中山玄雄大僧正御導師の下教区住職総出仕して盛況裡に厳修された。

九月自至十五日 滋賀教区樺野寺に於いて、新築本堂の落慶法要が、天台座主代理妙法院門跡三崎良泉大僧正御導師の下盛大に行われた。

九月自至十六日 天台宗研修会が延暦寺会館に於いて開かれた。全国各地から選抜された布教師、伝道師、寺庭婦人、一隅運動推進員、社会

福祉指導員等百九十人が参集して、熱心に修行、討議、実習に終始した。

九月十八日 滋賀院門跡に於いて、天台宗勸学会議が、山口光円院長、他各勸学出席の下開かれた。

九月廿六日 書道家である芸術院会員大僧正豊道慶中は九十二才をもって遷化した。

自九月廿六日 今年最後の天台宗青年僧特別安居会が比叡山西塔「にない堂」で行われた。この宗内の若い住職の比叡山での修行は、今回で既に九回を数える事と成った。

十月<sup>自</sup>至<sup>三</sup>日 東京国立劇場に於いて、第三回天台声明公演が中山大僧正他十四人の僧衆によって行われた。第一部例時作法別時念仏、第二部秘曲三十二相が、前回同様宮内庁雅楽部の演奏をバックに披露された。

十月四日 岐阜県慈明院（住職福生信善）に於いて、天台座主代理都筑玄妙大僧正御導師の円頓授戒会が執行された。教区住職二十五人が出仕

し、戒弟約六百人であった。

十月六日 群馬教区真光寺（住職都筑玄澄）に於いて、午前十時から報恩法要と円頓授戒会が、天台座主御名代山田滋賀院門跡御導師の下、盛大に執行された。

十月七日 群馬教区光嚴寺（住職田中耕順）に於いて、報恩法要並びに円頓授戒会が、座主猊下代理滋賀院門跡大僧正御導師の下嚴修された。戒弟は七〇〇人に及んだ。

十月八日 群馬教区華藏寺（住職藤井祐康）に於いて、報恩大法要と円頓授戒会が、座主猊下代理滋賀院門跡山田大僧正御導師の下嚴修された。戒弟は八〇〇人に及んだ。

十月九日 群馬教区長寿院（住職丸岡興舜）に於いて、報恩法要と円頓授戒会が、座主猊下御導師の下行われた。これで群馬教区の大遠忌記念御親教は終了した。

十月十日 埼玉教区慈恩寺に於いて、午前九時から、宗祖大師大遠忌法要と円頓授戒会が、座主猊下御導師の下行われた。戒弟は約一千人

であった。

十月十一日 川越の喜多院に於いて、午前九時から同寺本堂で、座主  
猥下代理山田滋賀院門跡御導師の下宗祖大師一千五十年大遠忌法要  
並びに剃度円頓授戒会が行われた。戒弟二千名であった。

同日 高松市行泉寺(住職柞原俊道)に於いて、本堂及び境内整備が完了  
したので、その落慶法要をかねて伝教大師大遠忌法要が、天台座主代  
理中山玄雄大僧正御導師の下教区住職総出仕して、盛大に執り行われ  
た。

十月十四日 午後三時半、岩手県で開かれた第二十五回国民体育大会  
に御出席の天皇・皇后兩陛下、皇太子御夫妻、高松宮御夫妻が、聖火  
採灯の地東北大本山中尊寺へ御参拝になり、今東光貫主が御案内説明  
申し上げた。

十月十六日 岡山教区主催の伝教大師千五十年御遠忌大法要が、岡  
山市山下の岡山市民会館で、座主猥下代理滋賀院門跡山田大僧正御親  
修の下執行され、約二千人の檀信徒が参集した。この岡山大会は、岡

山教区寺院、檀信徒連合会、寺庭婦人会、仏教青年会等が一体と成つて開催されたものである。法樂の後、岡山宗務所長の式辭、千葉宗務総長、加藤岡山県知事の挨拶があり、又午後には室生貞信師と、「一隅を照らす運動」会長今東光大僧正の記念講演があつた。

十月<sup>自十六</sup><sub>至廿一</sub>日

京都国際会議場で世界宗教者代表者による平和會議が開催された。この會議の目的は、宗教関係者は世界平和の為にどうすべきかを、宗教、宗派、国家、民族を超えて話し合う事にあつた。比叡山からは小川天台宗社会部長が出席した。

十月十八日 京都真正極樂寺に於いて、座主猊下代理三崎妙法院門主御導師の円頓授戒会が行われ、水谷三千院門主等が出仕した。

同日 南総教区行元寺に於いて、座主猊下代理滋賀院門跡山田大僧正御導師の下十五名の任職が出仕して、伝教大師報恩大法要が嚴修され、檀信徒千百余名に対し座主猊下代理御親修の授戒が執り行われた。

十月廿一日 北嶺大行満宝珠院光永澄道阿闍梨は千日回峯を満行したので、この日京都御所へ参内し、旧儀に則り玉体加持を奉修した。

十月廿二日 陸奥教区籠峯寺に於いて、宗祖一千五十年大遠忌並籠峯寺開山一千三百年慶讃法要が、天台座主代理今春聴権大僧正御導師によつて盛大に奉修された。

十月廿四日 天台座主即真周湛大僧正猥下は、来春の宗祖大師千百五十年御遠忌大法要の執行を控え健康上その任に堪えないと辞意を御表明され、本日付で辞表を宗務本庁に提出された。

第二百五十二世

探題大僧正 菅原栄海

本貫 岩手県江刺郡藤里村三十二 菅原堯玄三男

師僧 栃木県日光 照尊院 菅原栄信

昭和四十五年十月廿四日 任天台座主

十月廿四日 即真猥下座主職御辞任に伴ない、次席探題である日光山輪王寺門跡菅原栄海大僧正猥下は同日付で自動的に天台座主並びに天台宗管長に御就任された。猶、菅原猥下は日光輪王寺門跡を御兼務される。

十月廿六日 比叡山横川定光院に於いて、日蓮上人の祖師堂が完成したので、午前十一時から身延山藤井日静法主大導師の下その落慶法要が厳修された。

十月廿八日 名古屋に於いて「一隅を照らす運動」本部主催の托鉢が行われた。東海、北陸教区の任職、修験道の行者衆、空也念仏の教師等一二〇名が托鉢衣裳に身をかため、午後一時CBCホール正面玄関を出発し、広小路へ繰り出した。中日ビル前広場では今会長の辻説法が行われ、大衆に対して「一隅を照らす」ことの大事さを訴えた。

十月自卅一至卅一日 本年度の天台宗教学大会が、京都市真如堂に於いて開かれ、伝教大師に関する研究を中心とした発表があった。

十一月三日 滋賀教区東南寺に於いて、東南寺円頓授戒会が、天台座主代理三浦義薫大僧正御導師の下に厳肅裡に執行された。

十一月四日 菅原座主猊下は午前九時から、千葉宗務総長他各部長、叡南延暦寺執行他一山住職を随えられ、古式に則って根本中堂、祖廟を始め三塔各堂に御参拝、座主就任の御報告を為され、午後四時半無

事御拜堂の儀を終了された。

同日 延暦寺一山華藏院住職権大僧正森定慈紹は叡山学院々長に任命された。

十一月十四日 駐日米國大使が比叡山を訪問し根本中堂に参拝した。

十一月<sup>自廿二日</sup><sub>至廿三日</sub> 長野、新潟両県下の全住職が中心となり全国の有縁

者の協力を得て、伝教大師縁りの広拯、広濟両院趾に宗祖大遠忌を記念して献灯される事になり、廿二日は広拯院趾、廿三日は広濟院趾で、それぞれ山田滋賀院門跡御導師下の献灯法要が行われ、奉讚講演会が開かれた。

因みに、本年の大師奉讚講演大会は、五月四日福島教区、六月廿四日東京教区、十月五日九州東・西教区、十月十六日岡山教区、十月十八日京都教区に於いて、各々盛況裡に開催された。

十一月廿九日 第二百五十二世天台座主菅原栄海大僧正猊下の伝灯相承式が根本中堂に於いて左の次第で行われた。

第二百五十二世天台座主伝灯相承式次第

先式衆入堂 (越天楽)  
 次 座主貌下御入堂御登壇 (嘉祥楽)  
 次 唄 (長寿唄) (賀殿)  
 此間御宝前にて相承の御儀式  
 次 散華 (迦陵頻)  
 次 表白  
 次 諷誦文  
 次 発願  
 次 四弘願  
 次 開經偈  
 次 法楽 (心経)  
 次 後唄  
 次 座主貌下御降壇 (胡飲酒)  
 次 座主貌下御挨拶  
 次 祝辞 1 宗議会議長 2 延暦寺檀信徒代表 3 各宗管長代表

4 文部大臣 5 滋賀県知事 6 栃木県知事 7 大津市長

次 宗務総長挨拶

次 座主 猊下 并 式衆退場 ( 陵王 )

十一月卅日 座主 猊下 は大阪河内磯長叡福寺の聖徳太子廟に参詣され  
た。

十二月一日 座主 猊下 は京都御所へ参上して座主就任を御報告された。

十二月三日 座主 猊下 は東京千代田皇居に参内して座主就任を御報告  
された。

自第  
一百  
五十二  
世

天台座主年譜

第二百四十七世  
天台座主 梅谷孝永

昭和十五年十月三十一日 天台座主退職

同年十一月十日 宮城外苑に於ける紀元二千六百年  
式典並奉祝会に天台座主の資格で

参列

昭和十六年五月一日 東久邇宮家から御見舞の御菓子を下賜される

昭和二十年一月十三日 遷化

第二百四十八世  
天台座主 久田全琮

明治二年六月二十四日 誕生

明治十一年一月 第七教区滝之坊に於いて得度

明治十五年 自七月 第七教区観音寺に於いて四度加行  
至十一月 履修

明治十七年十一月 密蔵院灌室に於いて入壇灌頂を履修

明治十七年十二月三日 愛知県愛知郡荒子村大字高畑七四番久田さかい養嗣子として転籍

明治二十三年十二月 密蔵院灌室に於いて開壇灌頂を履修

明治二十四年十月 天台座主実源大僧正に就いて登壇受戒

同年十月 探題淑栄大僧正に就いて暨義遂業

明治二十六年一月 第七教区法王寺住職

明治二十七年六月 第三教区徳万坊住職

明治三十年九月 第八教区真福寺住職

同年十月 総会議員

明治三十八年四月 会議副議長

明治三十九年十一月 宗務庁庶務課員

大正三年六月 権僧正補任

大正四年三月 宗務庁庶務部長

同年四月 第八教区長

同年七月 精査局精査員

大正九年四月 僧正補任

同年九月三日 愛知県額田郡岩津村大字真福寺字西谷一番地へ再転籍

大正十年九月 総務

大正十三年五月 曼殊院門跡

同年十一月 精査局長

大正十四年七月 宗機顧問

同年同月 比叡山中学校長

同年八月 戸津説法勤仕

昭和二年四月 権大僧正補任

昭和三年二月 望擬講補任

同年 同 月 擬講補任

昭和四年六月四日 長講会五役已勤

昭和五年三月 審理局長

昭和六年十一月 已講補任

昭和十年四月 大僧正補任

昭和十五年五月四日 延曆寺根本中堂勅額拝戴慶讃法要  
導師勤修

同年 同 月 探題補任

同年十月十八日 第十六教区紀元二千六百年、大祝  
禱会並支那事変忠靈追悼法要に座  
主代理として導師を勤修

同年十月三十一日 延曆寺住職、第二百四十八世天台  
座主

昭和十六年三月三十一日 天台座主退職

昭和二十二年二月八日 京都市左京区一乗寺竹内町曼殊院  
門跡に於いて遷化

第二百四十九世  
天台座主 渋谷慈鑑

明治九年八月一日 誕生

明治二十年 第二十三教区永年寺に於いて得度

明治二十四年<sup>自三月</sup>至<sup>六月</sup> 第二十三教区永年寺に於いて四度  
加行を履修

同年 十一月 金山寺灌室に於いて入壇灌頂を履  
修

明治二十九年十二月 第二十三教区宝寿寺住職

明治三十六年五月 天台座主三津玄深大僧正に就いて  
登壇受戒

同年 同 月 探題山岡観澄大僧正に就いて暨義  
遂業

明治三十八年十二月 延曆寺一山鶏頭院住職

明治四十年九月 延曆寺鶏足院灌室に於いて開壇灌  
頂を履修

明治四十二年十月 延曆寺幹事

大正八年五月 延曆寺幹事

大正十年二月 叡山試学寮長

同年 十一月 教学商議會商議員

大正十二年五月 延曆寺幹事

大正十三年四月 權僧正補任

大正十四年八月 教学商議會商議員

大正十五年三月 延曆寺一山華藏院住職

昭和二年五月 延曆寺幹事

昭和三年九月 比叡山專修院兼叡山学院幹事

昭和五年六月 長講会五役已勤  
 同年八月 戸津説法勤仕  
 昭和六年四月 僧正補任  
 同年十一月 比叡山専修院教授並叡山学院講師  
 昭和九年二月 第一教区真正極楽寺住職  
 同年三月 延曆寺幹事  
 同年九月 教学商議會商議員  
 昭和十年七月 教学商議會商議員  
 同年同月 延曆寺執行、本山教区长  
 昭和十一年九月 望擬講補任  
 同年同月 擬講補任  
 昭和十四年八月一日 毘沙門堂門跡  
 同年四月 権大僧正補任  
 昭和十五年三月 比叡山専修院講師  
 同年同月 教義討究所委員  
 同年五月 已講補任  
 昭和十六年二月 審理局長  
 同年三月三十日 探題補任  
 同年同月三十一日 延曆寺住職第二百四十九世天台座主、三派合同天台宗初代管長  
 同年十月四日 戦時下臨時御修法導師勤仕  
 同年十二月自八日至十四日 戦時下国禱会導師

同年十二月十七日 戦時下伊勢大神宮に正式参拝  
 昭和十七年九月十五日 満洲建国十年記念祭大祝典儀に大日本仏教会を代表して参列  
 同年十一月二十六日 各宗管長等と俱に天皇陛下に拝謁の光栄に浴す。  
 昭和二十二年十月七日 遷化

第二百五十世  
 天台座主 中山玄秀

明治十二年一月七日 誕生  
 明治二十五年三月八日 戒師中山玄航大僧正に就いて得度  
 明治二十七年自六月二十日至九月三十日 阿闍梨中山玄航大僧正に就いて四度加行履修  
 明治二十八年六月十六日 法曼院灌室に於いて入壇灌頂を履修  
 明治三十二年十月一日 天台座主中山玄航大僧正に就いて登壇受戒  
 同年同月二日 探題中山玄航大僧正に就いて豎義遂業  
 明治三十四年七月 回峯行一百日履修  
 明治三十五年六月十七日 延曆寺一山真乘院住職  
 明治四十年九月十八日 法曼院灌室に於いて開壇伝法

大正九年十月十四日 延曆寺一山明德院住職

大正十年一月十五日 御遠忌事務局掛員

同年五月二十八日 延曆寺幹事

大正十四年五月三十日 延曆寺幹事

同年十一月二十日 延曆寺參事會員

昭和七年六月一日 開宗記念評議員會評議員

昭和八年七月七日 比叡山中学山家寮建設委員

昭和九年六月 比叡山中学加行依法阿闍梨

昭和十年二月一日 開宗記念事務局評議員會議員

同年六月一日 精查局精查員

同年十月十八日 天台宗教學財團評議員、天台宗教學財團監事

昭和十一年八月二十六日 戶津說法を勤仕

昭和十二年三月一日 開宗記念法會につき灌頂教授師

昭和十三年三月八日 延曆寺執行 滿洲開教局本山課長

同年同月十九日 財團法人比叡山專修院評議員

同年四月十四日 財團法人比叡山專修院監事

同年同月十八日 教學商議會商議員

昭和十四年九月一日 臨時宗制調查會委員

昭和十五年三月七日 勅額揮戴慶讚法要奉行

同年五月十八日 望擬講補任

同年七月十八日 精查局精查員

昭和十六年六月三十日 毘沙門堂門跡

昭和十八年十二月二十四日 擬講補任

昭和二十年九月五日 宗機顧問

昭和二十一年五月八日 已講補任

同年九月二十一日 比叡山專修院々長並に比叡山專門學院學長

昭和二十二年一月三十日 教師檢定会委員長

同年五月二十二日 探題補任

同年十月十日 延曆寺住職、第二百五十世天台座主

昭和三十年四月自二十日至二十九日 天台大師千三百五十年遠忌大法要並根本中堂大修理落慶法要導師

昭和三十三年四月自二十日至二十四日 天台宗開宗千百五十年記念大法要導師勤仕

昭和三十四年五月八日 比叡山釈迦堂大修理落慶大法要導師勤仕

同年九月三日 元三大師九百七十五年遠忌法要導師勤仕

昭和三十四年十一月九日 遷化

第二百五十二世 天台座主 即眞周湛

明治二十一年九月二十六日 誕生

明治三十二年十一月二十四日 比叡山理性院に於いて即眞

得眞を師として戒師坊城皎然大僧

正に就いて得度

明治三十六年 自八月二十三日至十一月二十七

日 横尾山施福寺に於いて前天

台座主坊城皎然大僧正に就いて四

度加行を履修

明治四十年九月二十五日 正覚院灌室に於いて阿闍梨華王

院天納中海に就いて入坦灌頂を履

修

明治四十三年十二月十四日 延暦寺一山理性院住職

明治四十四年九月十八日 正覚院灌室に於いて天台座主梅

谷孝成大僧正に就いて開壇伝法

同年十月三日 天台座主不二門智光大僧正に就い

て登壇受戒

同年同月四日 探題石堂晃純大僧正に就いて豎義

遂業

大正四年三月二十四日 天台宗西部大学卒業

大正五年四月二十五日 比叡山中学校教師

大正六年十二月二十二日 延暦寺支院大覚寺兼任、(爾来

白豪院、華王院、観明院、総持坊

薬樹院、正覚院兼任)

大正十一年一月二十五日 地方教師検定会委員

大正十二年六月二十一日 安居講習会幹事

大正十四年十二月二十一日 延暦寺幹事

昭和四年一月三十日 教師検定会委員

昭和七年六月四日 法華大会々行事

昭和九年四月二十一日 権僧正補任

同年九月一日 慈恵大師九百五十年御遠忌法要掛

員

同年十月一日 宗務庁委員

昭和十年一月一日 開宗記念事務局員、営繕部長

同年七月十五日 善光寺別当大勸進副住職

同年八月二十二日 叡山学寮長

昭和十三年七月一日 精査局精査員

同年八月二十五日 戸津説法勤仕

昭和十五年四月十六日 勅額拝戴慶讃法要奉行、教師詮衡

会委員

同年四月二十日 延暦寺執行

同年五月十六日 本山教区長

同年六月四日 長講会五役己勤

同年同月六日 専修院財団評議員、同監事

昭和十六年三月三十一日 僧正補任

同年十一月一日 特に宗会議員に補任、教学財団評

議員、同監事

昭和十九年十一月六日 望擬講補任

同年 同月 十一日 滋賀院門跡

昭和二十三年四月二十一日 權大僧正補任

昭和二十六年五月二十日 已講補任

昭和二十八年四月二十一日 大僧正補任

同年 五月 十一日 探題補任

昭和三十四年十一月九日 延曆寺住職、第二百五十一世天台座主

昭和三十八年 自四月十九日至五月十二日 慈覺大師千百年御遠忌並大講堂落成慶讚法要導師

昭和四十年 五月 二日 中国天台山国清寺參拜

昭和四十一年 八月 十八日 宗祖伝教大師御生誕一千二百年大法要導師

昭和四十五年 十月 二十四日 座主退職

昭和四十六年 二月 十五日 遷化

第二百五十二世 天台座主 菅原 栄海

明治二十一年 二月 十六日 誕生

明治三十一年 十月 十二日 戒師石室孝暢大僧正に就いて得度

明治三十五年 自五月十一日至七月三十日 阿闍梨彦坂諶照僧正に就いて四

度加行履修

明治四十三年 十月 五日 寛永寺灌室に於いて入壇灌頂履修

大正三年 十一月 十七日 医王院住職

大正八年 十月 二日 天台座主吉田源応大僧正に就いて登壇受戒

同年 同月 三日 探題石堂晃純大僧正に就いて暨義遂業

昭和三年 九月 十六日 法曼院灌室に於いて開壇伝法

昭和十三年 八月 三十日 第十六教区長

昭和十六年 五月 十五日 第二十教区宗務支所長

昭和二十七年 三月 四日 日光輪王寺門跡

同年 十一月 十七日 宗機顧問

昭和三十二年 八月 二十五日 戸津説法勤仕

同年 九月 五日 望擬講補任

昭和三十四年 九月 十八日 擬講補任

昭和三十七年 十二月 一日 已講補任

昭和三十八年 六月 六日 探題補任

昭和四十二年 九月 二十九日 宗機顧問会々長

昭和四十五年 十月 二十四日 延曆寺住職、第二百五十二世天台座主

天台座主

## あとがき

本書は昭和四十六年の宗祖伝教大師一千百五十年大遠忌の記念出版の一として、昭和四十一年の宗祖大師一千二百年の御生誕慶讃の歳に計画されたものである。

その後、宗務総長は三代に亘り、教学部長もまた屢々更迭になり、このため緒についたのが古宇田前教学部長のとき、池山一切円、渡辺恵孝両師に編纂を委嘱し着手されたが、木下前宗務総長の遷化により当局が変り、ここに昨年暮になってようやく具体的発足の運びとなり、急拠編纂に取りかかった次第である。

本書は今回の出版が続編巻三に当るのであるが、今後の出版予定も考慮し「天台座主記第三編」とし、前巻までは文語体で、カタ仮名であったのを時流に従い口語体、ひら仮名書きに改めた。しかし装訂、製本型はできるだけ前巻に準じた。

特に大遠忌を控えての多端な折に、編纂に尽力下された叡山学院池山院長、叡山文庫渡辺主任の労を多とし謝意を表す。尚、本書が記念出版として刊行できたことは、宗内関係諸師の物心両面にわたるご配慮とご協力ご支援のお蔭であると衷心よりお礼申し上げます。

昭和四十六年六月一日

天台宗教学部長 武 覚 円